

コロジオン 本品は、無色透明の粘性のある液で、ジエチルエーテルようのにおいがある。

pH 5.0 ~ 8.0.

本品 5 g を加温しながらかき混ぜ、これに水 10 mL を徐々に加える。蒸発乾固した後、110 °C で乾燥するとき、その残分は 0.250 ~ 0.275 g である。

コンゴーレッド $C_{32}H_{22}N_6Na_2O_6S_2$ [K 8352, 特級]

コンゴーレッド紙 ろ紙をコンゴーレッド試液に浸した後、風乾して製する。

コンゴーレッド試液 コンゴーレッド 0.5 g を水/エタノール(95) 混液 (9 : 1) 100 mL に溶かす。

サイコサボニン a, 薄層クロマトグラフ用 $C_{42}H_{68}O_{13}$ 無色~白色の粉末で、においはない。メタノール又はエタノール(95) に溶けやすく、クロロホルム又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。融点: 225 ~ 232 °C (分解)。

純度試験 類縁物質 本品 1.0 mg をとり、メタノール 1 mL を正確に加えて溶かした液 10 μL につき、「サイコ」の確認試験(2)を準用し、試験を行うとき、 R_f 値約 0.4 の主スポット以外のスポットを認めない。

酢酸 酢酸 (31) を見よ。

酢酸 (31) 酢酸 (100) 31.0 g に水を加えて 100 mL とする (5 mol/L)。

酢酸 (100) CH_3COOH [K 8355, 酢酸, 特級]

酢酸, 希 酢酸 (100) 6 g に水を加えて 100 mL とする (1 mol/L)。

酢酸, 非水滴定用 [K 8355, 特級, ただし、次の試験に適合するもの]

純度試験 無水酢酸 アニリン 1.0 g に本品を加えて 100 mL とし、試料溶液とする。試料溶液 25 mL を正確に量り、0.1 mol/L 過塩素酸で滴定し、その消費量を A (mL) とする。ただし、A は 26 mL 以上である。次に、試料溶液 25 mL を正確に量り、本品 75 mL を加えた後、0.1 mol/L 過塩素酸で滴定し、その消費量を B (mL) とする(電位差滴定法)。A - B は 0.1 (mL) 以下である (0.001 g/dL 以下)。

酢酸, 水 酢酸 (100) を見よ。

酢酸 3-メチルブチル $CH_3COOCH_2CH_2CH(CH_3)_2$ [K 8358, 特級]

酢酸亜鉛 酢酸亜鉛二水和物 を見よ。

酢酸亜鉛二水和物 $Zn(CH_3COO)_2 \cdot 2H_2O$ [K 8356, 特級]

酢酸アンモニウム CH_3COONH_4 [K 8359, 特級]

酢酸アンモニウム試液 酢酸アンモニウム 10 g を水に溶かし、100 mL とする。

酢酸アンモニウム試液, 0.5 mol/L 酢酸アンモニウム 38.5 g を水に溶かし、1000 mL とする。

酢酸イソアミル 酢酸 3-メチルブチル を見よ。

酢酸ウラニル 酢酸ウラニル二水和物 を見よ。

酢酸ウラニル・亜鉛試液 酢酸ウラニル二水和物 10 g に酢酸 (31) 5 mL 及び水 50 mL を加え、加熱して溶かす。別に酢酸亜鉛二水和物 30 g に酢酸 (31) 3 mL 及び水 30 mL を加え、加熱して溶かす。温時、これらの液を混和し、冷後、ろ過する。

酢酸ウラニル試液 酢酸ウラニル二水和物 1 g を水に溶かし、20 mL とし、必要ならばろ過する。

酢酸ウラニル二水和物 $UO_2(CH_3COO)_2 \cdot 2H_2O$ [K 8360 : 1961, 特級]

酢酸エチル $CH_3COOC_2H_5$ [K 8361, 特級]

酢酸塩緩衝液, pH 4.5 酢酸 (100) 90 mL 及び無水酢酸ナトリウム 63 g を水に溶かし、1000 mL とする。

酢酸塩緩衝液, pH 5.5 酢酸ナトリウム三水和物 2.72 g を水に溶かして 1000 mL とし、薄めた酢酸 (100) (3 → 2500) を加えて pH 5.5 に調整する。

酢酸カドミウム 酢酸カドミウム二水和物 を見よ。

酢酸カドミウム二水和物 $Cd(CH_3COO)_2 \cdot 2H_2O$ [K 8362, 特級]

酢酸カリウム CH_3COOK [K 8363, 特級]

酢酸カリウム試液 酢酸カリウム 10 g を水に溶かし、100 mL とする (1 mol/L)。

酢酸コルチゾン $C_{23}H_{30}O_6$ [医薬品各条]

酢酸・酢酸アンモニウム緩衝液, pH 3.0 酢酸アンモニウム試液に酢酸 (31) を加えて pH を 3.0 に調整する。

酢酸・酢酸アンモニウム緩衝液, pH 4.5 酢酸アンモニウム 77 g を水 200 mL に溶かし、これに酢酸 (100) を加えて pH 4.5 に調整し、水を加えて 1000 mL とする。

酢酸・酢酸アンモニウム緩衝液, pH 4.8 酢酸アンモニウム 77 g を水約 200 mL に溶かし、酢酸 (100) 57 mL を加え、水を加えて 1000 mL とする。

酢酸・酢酸カリウム緩衝液, pH 4.3 酢酸カリウム 14 g に酢酸 (100) 20.5 mL 及び水を加えて溶かし、1000 mL とする。

酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液, 0.1 mol/L, pH 4.0 酢酸ナトリウム三水和物 13.61 g を水 750 mL に溶かし、酢酸 (100) を用いて pH 4.0 に調整した後、水を加えて 1000 mL とする。

酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液, 1 mol/L, pH 5.0 酢酸ナトリウム試液に希酢酸を加えて、pH 5.0 に調整する。

酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液, pH 4.0 酢酸ナトリウム三水和物 5.44 g を水 900 mL に溶かし、酢酸 (100) を滴加し、pH を 4.0 に調整した後、水を加えて 1000 mL とする。

酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液, pH 4.5 酢酸ナトリウム試液 80 mL に希酢酸 120 mL 及び水を加えて 1000 mL とする。

酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液, pH 4.5, 鉄試験用 酢酸 (100) 75.4 mL 及び酢酸ナトリウム三水和物 111 g を水に溶かし、1000 mL とする。

酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液, pH 4.7 酢酸ナトリウム三水和物 27.2 g を水 900 mL に溶かし、酢酸 (100) を滴加し、pH を 4.7 に調整した後、水を加えて 1000 mL とする。

酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液, pH 5.0 酢酸ナトリウム試液 140 mL に希酢酸 60 mL 及び水を加えて 1000 mL とする。

酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液, pH 5.5 酢酸ナトリウム三水和物 20 g を水 80 mL に溶かし、酢酸 (100) を滴加し、pH を 5.5 に調整した後、水を加えて 100 mL とする。

酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液, pH 5.6 酢酸ナトリウム三水和物 12 g に酢酸 (100) 0.66 mL 及び水を加えて溶かし、100 mL とする。

酢酸・酢酸ナトリウム試液 1 mol/L 水酸化ナトリウム液 17

mL に希酢酸 40 mL 及び水を加えて 100 mL とする。
酢酸試液, 6 mol/L 酢酸 (100) 36 g に水を加えて 100 mL とする。

酢酸水銀 (II) $\text{Hg}(\text{CH}_3\text{COO})_2$ [K 8369, 特級]
酢酸水銀 (II) 試液, 非水滴定用 酢酸水銀 (II) 5 g を非水滴定用酢酸に溶かし, 100 mL とする。

酢酸セミカルバジド試液 塩酸セミカルバジド 2.5 g, 無水酢酸ナトリウム 2.5 g 及びメタノール 30 mL をフラスコに入れ, 水浴上で 2 時間加熱した後, 20 °C に冷却し, ろ過する。ろ液にメタノールを加えて 100 mL とする。この液は冷所に保存する。液が黄色を呈したときは用いない。

酢酸第二水銀 酢酸水銀 (II) を見よ。

酢酸第二水銀試液, 非水滴定用 酢酸水銀 (II) 試液, 非水滴定用 を見よ。

酢酸第二銅 酢酸銅 (II) 一水和物 を見よ。

酢酸第二銅試液, 強 酢酸銅 (II) 試液, 強 を見よ。

酢酸銅 (II) 一水和物 $\text{Cu}(\text{CH}_3\text{COO})_2 \cdot \text{H}_2\text{O}$ [K 8370, 特級]

酢酸銅 (II) 試液, 強 酢酸銅 (II) 一水和物 13.3 g を水 195 mL 及び酢酸 (31) 5 mL の混液に溶かす。

酢酸トコフェロール $\text{C}_{31}\text{H}_{52}\text{O}_3$ [医薬品各条]
酢酸ナトリウム 酢酸ナトリウム三水和物 を見よ。

酢酸ナトリウム, 無水 CH_3COONa [K 8372, 酢酸ナトリウム, 特級]
酢酸ナトリウム・アセトン試液 酢酸ナトリウム三水和物 8.15 g 及び塩化ナトリウム 42 g を水 100 mL に溶かし, 0.1 mol/L 塩酸 68 mL, アセトン 150 mL 及び水を加えて 500 mL とする。

酢酸ナトリウム三水和物 $\text{CH}_3\text{COONa} \cdot 3\text{H}_2\text{O}$ [K 8371, 特級]

酢酸ナトリウム試液 酢酸ナトリウム三水和物 13.6 g を水に溶かし, 100 mL とする (1 mol/L).

酢酸鉛 酢酸鉛 (II) 三水和物 を見よ。

酢酸鉛 (II) 三水和物 $\text{Pb}(\text{CH}_3\text{COO})_2 \cdot 3\text{H}_2\text{O}$ [K 8374, 特級]

酢酸鉛紙 酢酸鉛 (II) 紙 を見よ。

酢酸鉛II紙 通例 6 × 8 cm のろ紙を酢酸鉛 (II) 試液に浸し, 過量の液を除いた後, 金属に触れないようにして 100 °C で乾燥する。

酢酸鉛試液 酢酸鉛 (II) 試液 を見よ。

酢酸鉛II試液 酢酸鉛 (II) 三水和物 9.5 g に新たに煮沸して冷却した水を加えて溶かし, 100 mL とする (0.25 mol/L).

貯法 密栓して保存する。

酢酸ヒドロキソコバラミン $\text{C}_{62}\text{H}_{89}\text{CoN}_{13}\text{O}_{15}\text{P} \cdot \text{C}_2\text{H}_4\text{O}_2$ 暗赤色の結晶又は粉末である。
 乾燥減量 12 % 以下 (0.05 g, 減圧・0.67 kPa 以下, 酸化リン (V), 100 °C, 6 時間).
 含量 98.0 % 以上。定量法「酢酸ヒドロキソコバラミン」の定量法を準用する。

酢酸ヒドロコルチゾン $\text{C}_{28}\text{H}_{32}\text{O}_6$ [医薬品各条]
酢酸ビニル $\text{C}_4\text{H}_6\text{O}_2$ 無色澄明の液体である。
 比重 0.932 ~ 0.936
 水分 0.2 % 以下。

酢酸 n-ブチル $\text{CH}_3\text{COOCH}_2\text{CH}_2\text{CH}_2\text{CH}_3$ [K 8377, 酢酸ブチル, 特級]

酢酸ブレドニゾロン $\text{C}_{23}\text{H}_{30}\text{O}_6$ [医薬品各条]

酢酸リチウム二水和物 $\text{CH}_3\text{COOLi} \cdot 2\text{H}_2\text{O}$ 無色の結晶である。

希酢酸不溶物 0.0025 % 以下。本品 40.0 g に水 45 mL を加え, 水浴中で加熱溶解し, 冷後, 希酢酸に溶かし, 吸引ろ過する。ろ過器を水で洗浄後, 105 ± 2 °C で 1 時間乾燥し, 冷後, 残分の質量を量る。

含量 97.0 % 以上。定量法 本品 0.3 g を精密に量り, 酢酸 (100) 50 mL と無水酢酸 5 mL を正確に加え水浴中で加熱溶解し, 冷後 0.1 mol/L 過塩素酸で, 滴定する (電位差滴定法)。同様の方法で空試験を行い, 補正する。

$$\begin{aligned} &0.1 \text{ mol/L 過塩素酸 } 1 \text{ mL} \\ &\quad = 10.201 \text{ mg } \text{CH}_3\text{COOLi} \cdot 2\text{H}_2\text{O} \end{aligned}$$

酢酸・硫酸試液 酢酸 (100) 5 mL に硫酸 5 mL を氷冷しながら注意して加え, 混和する。

サラシ粉 [医薬品各条, 第二部]

サラシ粉試液 サラシ粉 1 g に水 9 mL を加えてすり混ぜた後, ろ過する。用時製する。

サリチルアミド $\text{C}_7\text{H}_7\text{NO}_2$ 白色の結晶又は結晶性の粉末で, におい及び味はない。N,N-ジメチルホルムアミドに溶けやすく, エタノール (95) に溶けやすく, プロピレングリコールにやや溶けやすく, ジエチルエーテルにやや溶けにくく, 水又はクロロホルムに溶けにくい。水酸化ナトリウム試液に溶ける。

融点 139 ~ 143 °C

純度試験 アンモニウム 本品 1.0 g に水 40 mL を加えて振り混ぜた後, あらかじめ水でよく洗ったろ紙を用いてろ過する。初めのろ液 10 mL を除き, 次のろ液 20 mL をネスラー管にとり, 水を加えて 30 mL とする。これを検液とし, 試験を行う。比較液はアンモニウム標準液 2.5 mL をネスラー管にとり, 水を加えて 30 mL とする。

乾燥減量 0.5 % 以下 (1 g, シリカゲル, 4 時間).

強熱残分 0.10 % 以下 (1 g).

含量 98.5 % 以上。定量法 本品を乾燥し, その約 0.2 g を精密に量り, N,N-ジメチルホルムアミド 70 mL に溶かし, 0.1 mol/L テトラメチルアンモニウムヒドロキシド液で滴定する (電位差滴定法)。別に N,N-ジメチルホルムアミド 70 mL に水 15 mL を加えた液につき, 同様の方法で空試験を行い, 補正する。

$$\begin{aligned} &0.1 \text{ mol/L テトラメチルアンモニウムヒドロキシド液 } 1 \text{ mL} \\ &\quad = 13.714 \text{ mg } \text{C}_7\text{H}_7\text{NO}_2 \end{aligned}$$

サリチルアルダジン $\text{C}_{14}\text{H}_{12}\text{N}_2\text{O}_2$ 硫酸ヒドラジニウム 0.30 g を水 5 mL に溶かす。この液に酢酸 (100) 1 mL 及び新たに製したサリチルアルデヒドの 2-プロパノール溶液 (1 → 5) 2 mL を加え, よく振り混ぜて黄色の沈殿を生じるまで放置する。これをジクロロメタン 15 mL ずつで 2 回抽出し, 全ジクロロメタン抽出液を合わせ, 無水硫酸ナトリウム 5 g を加えて振り混ぜた後, 傾斜又はろ過し, 上澄液又はろ液のジクロロメタンを留去する。残留物を加温したトルエン/メタノール混液 (3 : 2) に溶かして, 冷却する。析出

た結晶をろ取した後、デシケーター（減圧、シリカゲル）で24時間乾燥する。本品は黄色の結晶性の粉末である。

融点 213 ~ 219 °C

純度試験 本品 0.09 g をとり、トルエンに溶かし、正確に 100 mL とする。この液 1 mL を正確に量り、トルエンを加えて正確に 100 mL とした液につき「ボビドン」の純度試験（6）を準用し、試験を行うとき、主スポット以外のスポットを認めない。

サリチルアルデヒド $\text{HOC}_6\text{H}_4\text{CHO}$ [K 8390, 特級]

サリチル酸 $\text{HOC}_6\text{H}_4\text{COOH}$ [K 8392, 特級]

サリチル酸、定量用 $\text{HOC}_6\text{H}_4\text{COOH}$ [K 8392, サリチル酸、特級]

サリチル酸イソブチル $\text{C}_{11}\text{H}_{14}\text{O}_3$ 無色透明の液で、特異なにおいがある。

屈折率 n_D^{20} : 1.506 ~ 1.511

比重 d_4^{20} : 1.068 ~ 1.073

沸点 260 ~ 262 °C

純度試験 本品 1 μL につき、次の条件でガスクロマトグラフ法により試験を行う。各々のピーク面積を自動積分法により測定し、面積百分率法によりサリチル酸イソブチルの量を求めるとき、97.0 % 以上である。

操作条件

検出器：熱伝導度型検出器

カラム：内径約 3 mm、長さ約 2 m の管にガスクロマトグラフ用ポリエチレングリコール 20 M を 180 ~ 250 μm のガスクロマトグラフ用ケイソウ土に 10 % の割合で被覆したものを使ってんする。

カラム温度：220 °C 付近の一定温度

キャリヤーガス：ヘリウム

流量：毎分約 20 mL

検出感度：本品 1 μL から得たサリチル酸イソブチルのピーク高さがフルスケールの 60 ~ 80 % になるよう調整する。

面積測定範囲：サリチル酸イソブチルの保持時間の約 3 倍の範囲

サリチル酸試液 サリチル酸 0.1 g を硫酸 10 mL に溶かす。用時製する。

サリチル酸鉄試液 硫酸アンモニウム鉄（III）十二水和物 0.1 g を薄めた硫酸（1 → 250）50 mL に溶かし、水を加えて 100 mL とする。この液 20 mL を量り、サリチル酸ナトリウム溶液（23 → 2000）10 mL、希酢酸 4 mL、酢酸ナトリウム試液 16 mL 及び水を加えて 100 mL とする。用時製する。

サリチル酸ナトリウム $\text{HOC}_6\text{H}_4\text{COONa}$ [K 8397, 特級]

サリチル酸ナトリウム・水酸化ナトリウム試液 サリチル酸ナトリウム 1 g を 0.01 mol/L 水酸化ナトリウム液に溶かし、100 mL とする。

サリチル酸メチル $\text{C}_8\text{H}_8\text{O}_3$ [医薬品各条]

三塩化アンチモン 塩化アンチモン（III）を見よ。

三塩化アンチモン試液 塩化アンチモン（III）試液 を見よ。

三塩化チタン 塩化チタン（III）を見よ。

三塩化チタン試液 塩化チタン（III）試液 を見よ。

三塩化チタン・硫酸試液 塩化チタン（III）・硫酸試液 を見よ。

三塩化ヨウ素 ICl_3 [K 8403, 三塩化ヨウ素、特級]

酸化アルミニウム Al_2O_3 白色の結晶、結晶性の粉末又は粉末である。沸点：約 3000 °C、融点：約 2000 °C。

酸化カルシウム CaO [K 8410, 特級]

酸化クロム（VI） CrO_3 [K 8434 : 1980, 特級]

酸化クロム（VI）試液 酸化クロム（VI）3 g を水に溶かし、100 mL とする。

酸化チタン（IV） TiO_2 [K 8703, 特級]

酸化チタン（IV）試液 酸化チタン（IV）0.1 g に硫酸 100 mL を加え、時々ゆるく振り混ぜながら直火で徐々に加熱して溶かす。

酸化鉛（II） PbO [K 8090, 特級]

酸化鉛（IV） PbO_2 [K 8704 : 1994, 特級]

酸化バナジウム（V） V_2O_5 [K 8343 : 1963, 五酸化バナジウム、特級]

酸化バナジウム（V）試液 リン酸に酸化バナジウム（V）を加え、2 時間激しく振り混ぜて酸化バナジウム（V）を飽和させた後、ガラスろ過器を用いてろ過する。

酸化バナジウム（V）試液、希 酸化バナジウム（V）試液 10 mL に水を加えて 100 mL とする。用時製する。

酸化バリウム BaO [K 8428 : 1961, 乾燥用]

酸化マグネシウム MgO [K 8432, 特級]

酸化モリブデン（III） MoO_3 [K 8436 : 1979, 三酸化モリブデン、1 級]

酸化モリブデン（III）・クエン酸試液 酸化モリブデン（III）54 g 及び水酸化ナトリウム 11 g に水 200 mL を加え、かき混ぜながら加熱して溶かす。別にクエン酸一水和物 60 g を水 250 mL に溶かし、塩酸 140 mL を加える。両液を混和し、必要ならばろ過し、水を加えて 1000 mL とし、黄緑色を呈するまで臭素酸カリウム溶液（1 → 100）を加える。

貯法 密栓し、遮光して保存する。

酸化リン（V） P_2O_5 [K 8342, 酸化りん（V）、特級]

三酸化クロム 酸化クロム（VI）を見よ。

三酸化クロム試液 酸化クロム（VI）試液 を見よ。

三酸化ナトリウムビスマス NaBiO_3 [K 8770, 特級]

三酸化ニヒ素 As_2O_3 [K 8044, 三酸化ニヒ素、特級]

三酸化ニヒ素（標準試薬） [K 8005, 三酸化ニヒ素、容量分析用標準物質]

三酸化ニヒ素試液 三酸化ニヒ素 1 g に水酸化ナトリウム溶液（1 → 40）30 mL を加え、加熱して溶かし、冷後、酢酸（100）を徐々に加えて 100 mL とする。

三酸化ヒ素 三酸化ニヒ素 を見よ。

三酸化ヒ素（標準試薬） 三酸化ニヒ素（標準試薬） を見よ。

三酸化ヒ素試液 三酸化ニヒ素試液 を見よ。

三酸化モリブデン 酸化モリブデン（III）を見よ。

三酸化モリブデン・クエン酸試液 酸化モリブデン（III）・クエン酸試液 を見よ。

酸処理ゼラチン ゼラチン、酸処理 を見よ。

酸性塩化カリウム試液 塩化カリウム試液、酸性 を見よ。

酸性塩化スズ（II）試液 塩化スズ（II）試液、酸性 を見よ。

酸性塩化第一スズ試液 塩化スズ（II）試液、酸性 を見よ。

酸性塩化第二鉄試液 塩化鉄(III)試液、酸性を見よ。
 酸性塩化鉄(III)試液 塩化鉄(III)試液、酸性を見よ。
 酸性過マンガン酸カリウム試液 過マンガン酸カリウム試液、酸性を見よ。

酸性白土 天然の含水ケイ酸アルミニウムで、灰白色の粒度約75 μm の粉末である。

乾燥減量 10 % 以下 (1 g, 105 °C, 4 時間)。

水分吸着能 2.5 % 以上。本品約 10 g をはかり瓶に精密に量り、ふたを除いて比重 1.19 の硫酸で湿度を 80 %とした容器内に 24 時間入れた後、質量を量り、試料に対する増量を求める。

酸性硫酸アンモニウム鉄(III)試液 硫酸アンモニウム鉄(III)試液、酸性を見よ。

酸素 O₂ [K 1101]

サントニン C₁₅H₁₈O₃ [医薬品各条]

サントニン、定量用 [医薬品各条「サントニン」] ただし、定量するとき、サントニン (C₁₅H₁₈O₃) 99.0 % 以上を含むもの]

三ナトリウム五シアノアミン第一鉄試液 三ナトリウム五シアノアミン鉄(II)試液を見よ。

三ナトリウム五シアノアミン鉄(II)試液 ペンタシアノニトロシル鉄(III)酸ナトリウム二水和物 1.0 g にアンモニア試液 3.2 mL を加えて振り混ぜた後、密栓し、一夜冷蔵庫に保存する。この溶液をエタノール (99.5) 10 mL 中に加え、生じた黄色の沈殿を吸引ろ過して集め、無水ジエチルエーテルで洗い、乾燥した後、デシケーター中に保存する。用時水に溶かし、1.0 mg/mL の溶液とし、冷蔵庫に保存する。調製後 7 日以内に用いる。

3 倍濃厚乳糖ブイヨン 乳糖ブイヨン、3 倍濃厚を見よ。

三フッ化ホウ素 BF₃ 無色の気体で、刺激臭がある。

融点 -127.1 °C

沸点 -100.3 °C

三フッ化ホウ素・メタノール試液 三フッ化ホウ素 (BF₃: 67.81) を 14 g/dL 含むメタノール溶液である。

酸又はアルカリ試験用メチルレッド試液 メチルレッド試液、酸又はアルカリ試験用を見よ。

次亜塩素酸ナトリウム試液 次亜塩素酸ナトリウム (NaClO : 74.44) が 5 % 含量となるように、水酸化ナトリウムの水溶液に氷冷しながら塩素を通じて製する。用時製する。

次亜塩素酸ナトリウム試液、アンモニウム試験用 水酸化ナトリウム又は炭酸ナトリウム十水和物の水溶液に塩素を吸収させた無色～淡緑黄色澄明の液で、塩素のにおいがある。

含量 次亜塩素酸ナトリウム (NaClO : 74.44) として 4.2 g/dL 以上。定量法 本品 10 mL を正確に量り、水を加えて正確に 100 mL とする。この液 10 mL を正確に共栓フラスコにとり、水 90 mL を加えた後、ヨウ化カリウム 2 g 及び薄めた酢酸 (31) (1 → 2) 6 mL を加え、密栓してよく振り混ぜ、暗所に 5 分間放置する。遊離したヨウ素を 0.1 mol/L チオ硫酸ナトリウム液で滴定する (指示薬: デンプン試液 3 mL)。同様の方法で空試験を行い、補正する。

0.1 mol/L チオ硫酸ナトリウム液 1 mL
 = 3.7221 mg NaClO

次亜塩素酸ナトリウム・水酸化ナトリウム試液 次亜塩素酸ナトリウム (NaClO : 74.44) 1.05 g 対応する容量のアンモニウム試験用次亜塩素酸ナトリウム試液に水酸化ナトリウム 15 g 及び水を加えて溶かし、1000 mL とする。用時製する。

次亜臭素酸ナトリウム試液 臭素試液 8 mL に水 25 mL 及び炭酸ナトリウム試液 25 mL を加える。用時製する。

ジアセチル CH₃COCOCH₃ 黄色～黄緑色の澄明な液で、強い刺激性のにおいがある。エタノール (95) 又はジエチルエーテルと混和し、水に溶けやすい。

凝固点 -2.0 ~ -5.5 °C

屈折率 n_D²⁰ : 1.390 ~ 1.398

比重 d₂₀²⁰ : 0.98 ~ 1.00

沸点 85 ~ 91 °C

純度試験 溶状 本品 1.0 g を水 10 mL に溶かすとき、液は澄明である。

含量 95.0 % 以上。定量法 本品約 0.4 g を精密に量り、ヒドロキシルアミン試液 75 mL を正確に加え、還流冷却器を付け、水浴上で 1 時間加熱する。冷後、過量のヒドロキシルアミンを 0.5 mol/L 塩酸で滴定する (指示薬: ブロモフェノールブルー試液 3 滴)。ただし、滴定の終点は液の青色が緑色を経て黄緑色に変わるととする。同様の方法で空試験を行い、補正する。

0.5 mol/L 塩酸 1 mL = 21.522 mg C₄H₆O₂

ジアセチル試液 ジアセチル 1 mL を水に溶かし、100 mL とする。この液 5 mL に水を加えて 100 mL とする。用時製する。

ジアゾ化滴定用スルファニルアミド スルファニルアミド、ジアゾ化滴定用を見よ。

ジアゾ試液 スルファニル酸 0.9 g を正確に量り、塩酸 0.9 mL 及び水 20 mL を加え、加熱して溶かす。冷後、ろ過し、ろ液に水を加えて正確に 100 mL とする。この液 1.5 mL を正確にとり、氷冷した後、亜硝酸ナトリウム溶液 (1 → 20) 1 mL を正確にとり、振り混ぜながら徐々に滴加する。10 分間氷冷した後、更に冷水を加えて正確に 50 mL とする。冷所に保存し、調製後 8 時間以内に使用する。

ジアゾベンゼンスルホン酸試液 105 °C で 3 時間乾燥したスルファニル酸 0.9 g に希塩酸 10 mL を加え、加熱して溶かし、水を加えて 100 mL とする。この液 3.0 mL に亜硝酸ナトリウム試液 2.5 mL を加え、氷冷しながら 5 分間放置後、亜硝酸ナトリウム試液 5 mL 及び水を加えて 100 mL とし、氷水中で 15 分間放置する。用時製する。

ジアゾベンゼンスルホン酸試液、濃 105 °C で 3 時間乾燥したスルファニル酸 0.2 g に 1 mol/L 塩酸試液 20 mL を加え、加温して溶かす。この液を氷冷し、絶えずかき混ぜながら亜硝酸ナトリウム溶液 (1 → 25) 2.2 mL を滴加する。氷水中で 10 分間放置した後、スルファミン酸溶液 (1 → 20) 1 mL を加える。用時製する。

シアノコバラミン C₆₃H₈₈CoN₁₄O₁₄P [医薬品各条]

シアノプロピルシリル化シリカゲル、液体クロマトグラフ用
液体クロマトグラフ用に製造したもの。

7 % シアノプロピル-7 % フェニル-メチルシリコーンポリ
マー、ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造し
たもの。

2,3-ジアミノナフタリン $C_{10}H_{10}N_2$ 淡黄褐色の結晶又は粉末
で、エタノール(95)又はジエチルエーテルに溶けにくく、
水にほとんど溶けない。

融点 193 ~ 198 °C

感度 セレン標準液及び薄めた硝酸(1 → 60)40 mL ずつを正確に量り、それぞれにアンモニア水(28)を加えて pH を 1.8 ~ 2.2 とする。これらの液に塩酸ヒドロキシアンモニウム 0.2 g を加え、静かに振り混ぜて溶かし、次に 2,3-ジアミノナフタリン試液 5 mL を加え、振り混ぜた後、100 分間放置する。それぞれの液を分液漏斗に入れ、ビーカーを水 10 mL で洗い、洗液は分液漏斗中に合わせ、シクロヘキサン 5.0 mL を加えて 2 分間よく振り混ぜて抽出する。シクロヘキサン層をとり、遠心分離して水分を除く。セレン標準液から得た液につき、薄めた硝酸から得たシクロヘキサン液を対照とし、紫外可視吸光度測定法により試験を行うとき波長 378 nm における吸光度は、0.08 以上である。

セレン標準液 セレン 0.040 g を正確に量り、薄めた硝酸(1 → 2)100 mL を加え、必要ならば水浴上で加熱して溶かし、水を加えて正確に 1000 mL とする。この液 5 mL を正確に量り、水を加えて正確に 200 mL とする。この液 2 mL を正確に量り、薄めた硝酸(1 → 60)を加えて正確に 50 mL とする。用時製する。この液 1 mL はセレン(Se) 0.04 μg を含む。

次亜リン酸 ホスフィン酸 見よ。

シアノ化カリウム KCN [K 8443, 特級]

シアノ化カリウム試液 シアノ化カリウム 1 g を水に溶かし、10 mL とする。用時製する。

シアノ酢酸 $C_3H_3NO_2$ 白色~淡黄色の結晶である。水に極めて溶けやすい。

含量 99 % 以上。定量法 本品約 300 mg を精密に量り、水 25 mL 及びエタノール(95)25 mL を加えて溶かし、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する(電位差滴定法)。同様の方法で空試験を行ひ、補正する。

0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 1 mL = 85.06 mg $C_3H_3NO_2$

シアノ酢酸エチル $NCCH_2COOC_2H_5$ [K 8449 : 1961, 1 級]
ジエタノールアミン $C_4H_{11}NO_2$ 無色の粘性のある液体である。

融点 27 ~ 30 °C

水分 本品 1 g 中、水分は 1 mg 以下とする。

ジエチルアミノエチルセルロース、カラムクロマトグラフ用
カラムクロマトグラフ用に製造したもの。

ジエチルアミン $(C_2H_5)_2NH$ 無色透明の液で、アミンのような特異なにおいがある。水又はエタノール(95)と混和する。水溶液はアルカリ性で、空気中でたやすく二酸化炭素を吸収する。

比重 d_4^{10} : 0.702 ~ 0.708

蒸留試験 54 ~ 58 °C, 96 vol% 以上。

含量 99.0 % 以上。定量法 本品約 1.5 g を、0.5

mol/L 硫酸 30 mL を正確に入れたフラスコに精密に量り、過量の硫酸を 1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する(指示薬: メチルレッド試液 2 滴)。同様の方法で空試験を行う。

0.5 mol/L 硫酸 1 mL = 73.14 mg $(C_2H_5)_2NH$

ジエチルエーテル $C_2H_5OC_2H_5$ [K 8103, 特級]

ジエチルエーテル、生薬純度試験用 [K 8103, 特級] ただし、ジエチルエーテル 300.0 mL を量り、減圧、40 °C 以下で濃縮し、ジエチルエーテルを加えて正確に 1 mL とし、試料溶液とする。別に γ -BHC 2.0 mg を生薬純度試験用ヘキサンに溶かし、正確に 100 mL とする。この液 1 mL を正確に量り、生薬純度試験用ヘキサンを加えて正確に 100 mL とする。更にこの液 2 mL を正確に量り、生薬純度試験用ヘキサンを加えて正確に 100 mL とし、標準溶液(1)とする。試料溶液及び標準溶液(1) 1 μ L につき、次の操作条件でガスクロマトグラフ法により試験を行う。それぞれの液の各々のピーク面積を自動積分法により測定するとき、試料溶液の溶媒以外のピークの合計面積は、標準溶液(1)の γ -BHC のピーク面積より大きくない。

操作条件

検出感度及び面積測定範囲以外の操作条件は、「ニンジン末」の純度試験(3)の操作条件を準用する。

検出感度: 標準溶液(1) 1 mL を正確に量り、生薬純度試験用ヘキサンを加えて正確に 20 mL とし、標準溶液(2)とする。標準溶液(2) 1 μ L から得た γ -BHC のピーク面積が自動積分法により測定されるよう調整する。また、標準溶液(1) 1 μ L から得た γ -BHC のピーク高さがフルスケールの 20 % 前後となるように調整する。

面積測定範囲: 溶媒のピークの後から γ -BHC の保持時間の約 3 倍の範囲

ジエチルエーテル、無水 $C_2H_5OC_2H_5$ [K 8103, 特級] ただし、水分 0.01 % 以下のもの

N,N -ジエチルジチオカルバミド酸銀 $C_6H_{10}AgNS_2$ [K 9512, 特級]

N,N -ジエチルジチオカルバミド酸ナトリウム三水和物 $(C_2H_5)_2NCS_2Na \cdot 3H_2O$ [K 8454, 特級]

ジエチルジチオカルバミン酸亜鉛 一般試験法のプラスチック製医薬品容器試験法 見よ。

ジエチルジチオカルバミン酸銀 N,N -ジエチルジチオカルバミド酸銀 見よ。

ジエチルジチオカルバミン酸ナトリウム N,N -ジエチルジチオカルバミド酸ナトリウム三水和物 見よ。

N,N -ジエチルジチオカルバミン酸ナトリウム三水和物 N,N -ジエチルジチオカルバミド酸ナトリウム三水和物 見よ。

N,N -ジエチル-N'-1-ナフチルエチレンジアミンシュウ酸塩 $C_{18}H_{24}N_2O_4$ [K 8694 : 1992, 特級]

N,N -ジエチル-N'-1-ナフチルエチレンジアミンシュウ酸塩・アセトン試液 N,N -ジエチル-N'-1-ナフチルエチレンジアミンシュウ酸塩 1 g をアセトン/水混液(1:1) 100 mL に溶かす。用時製する。

N,N-ジエチル-*N'*-1-ナフチルエチレンジアミンシュウ酸塩試液 *N,N*-ジエチル-*N'*-1-ナフチルエチレンジアミンシュウ酸塩 1 g を水に溶かし, 1000 mL とする.

ジエチレングリコール HO(CH₂CH₂O)₂H 無色, 無臭の液で, 水, エタノール(95)と混和する.

比重 d₂₀²⁰: 1.118 ~ 1.120

ジエチレングリコールアジピン酸エステル, ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの.

ジエチレングリコールコハク酸エステル, ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの.

ジエチレングリコールジメチルエーテル (CH₃OCH₂CH₂)₂O 無色透明の液で, 水と混和する.

比重 d₄²⁰: 0.940 ~ 0.950

蒸留試験 158 ~ 160 °C, 95 vol% 以上.

ジエチレングリコールモノエチルエーテル [2-(2-エトキシエトキシ)エタノール] C₂H₅(OCH₂CH₂)₂OH 沸点が約 203 °C の無色透明の液体である. 水と混和する.

屈折率 d₅²⁰: 1.425 ~ 1.429

比重 d₂₀²⁰: 0.990 ~ 0.995

酸 (CH₃COOH として): 0.01 % 以下.

ジエチレングリコールモノエチルエーテル, 水分測定用 一般試験法の水分測定法を見よ.

四塩化炭素 CCl₄ [K 8459, 特級]

ジオキサン 1,4-ジオキサン 見よ.

1,4-ジオキサン C₄H₈O₂ [K 8461, 特級]

ジギトニン C₅₆H₉₂O₂₉ [K 8452, 特級]

シクロスピリン U C₈₁H₁₀₉N₁₁O₁₂ 白色の粉末である.

旋光度 [α]_D²⁰: 約 -190° (0.1 g メタノール, 20 mL, 100 mm)

シクロヘキサン C₆H₁₂ [K 8464, 特級]

シクロヘキシルアミン, 薄層クロマトグラフ用 C₆H₁₁NH₂

無色透明の液体でアミンようの特異なにおいがある. 水, N, *N*-ジメチルホルムアミド又はアセトンと混和する.

類縁物質 本品 0.04 g をとり, *N,N*-ジメチルホルムアミド/アセトン混液(1:1)に溶かし, 正確に 50 mL とした液につき, 「アセトヘキサミド」の純度試験(5)類縁物質 シクロヘキシルアミンを準用して, 試験を行うとき, R_f 値約 0.4 の主スポット以外のスポットを認めない.

1,2-ジクロルエタン 1,2-ジクロロエタン 見よ.

2,6-ジクロルフェノールインドフェノールナトリウム 2,6-ジクロロインドフェノールナトリウム二水和物 見よ.

2,6-ジクロルフェノールインドフェノールナトリウム試液 2,6-ジクロロインドフェノールナトリウム試液 見よ.

2,6-ジクロルフェノールインドフェノールナトリウム試液, 滴定用 2,6-ジクロロインドフェノールナトリウム試液, 滴定用 見よ.

ジクロルフルオレセイン ジクロロフルオレセイン 見よ.

ジクロルフルオレセイン試液 ジクロロフルオレセイン試液 見よ.

ジクロルメタン ジクロロメタン 見よ.

2,6-ジクロロインドフェノールナトリウム試液 2,6-ジクロロインドフェノールナトリウム二水和物 0.1 g に水 100 mL を加え, 加温した後, ろ過する. 3 日以内に使用する.

2,6-ジクロロインドフェノールナトリウム試液, 滴定用 医薬

品各条 「アスコルビン酸散」 見よ.

2,6-ジクロロインドフェノールナトリウム二水和物

C₁₂H₆Cl₂NNaO₂ · 2H₂O [K 8469, 特級]

1,2-ジクロロエタン ClCH₂CH₂Cl [K 8465, 特級]

ジクロロフルオレセイン C₂₀H₁₀C₁₂O₆ [K 8466: 1972, 特級]

ジクロロフルオレセイン試液 ジクロロフルオレセイン 0.1 g をエタノール(95) 60 mL に溶かし, 0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 2.5 mL を加え, 次に水を加えて 100 mL とする.

ジクロロメタン CH₂Cl₂ [K 8161, 特級]

次酢酸鉛試液 酢酸鉛(II) 三水和物 3 g 及び酸化鉛(II)

1 g に水 0.5 mL を加え, すり混ぜて得た類黄色の混和物をビーカーに入れ, 時計皿で覆い水浴上で加熱し均等の白色又は帶赤白色になったとき, 更に熱湯 9.5 mL を少量ずつ加え, 再び時計皿で覆い放置した後, 上澄液を傾斜してとり, 水を加えてその比重を 1.23 ~ 1.24 (15 °C) に調整する.

貯法 密栓して保存する.

次酢酸鉛試液, 希 次酢酸鉛試液 2 mL に新たに煮沸して冷却した水を加えて 100 mL とする. 用時製する.

シザンドリン, 薄層クロマトグラフ用 C₂₄H₃₂O₇ 白色の結晶又は結晶性の粉末である. メタノール又はジエチルエーテルに溶けやすく, 水にほとんど溶けない.

融点 130 ~ 135 °C

純度試験 類縁物質 本品 1.0 mg をとり, メタノール 1 mL を正確に加えて溶かした液 5 μL につき, 「ゴミシ」の確認試験を準用し, 試験を行うとき, R_f 値約 0.4 の主スポット以外のスポットを認めない.

ジシクロヘキシリウレア, 薄層クロマトグラフ用

C₆H₁₁NHCONHC₆H₅ 白色の結晶性の粉末で, においてない. *N,N*-ジメチルホルムアミド又はアセトンに極めて溶けにくく, 水にほとんど溶けない.

類縁物質 本品 0.04 g をとり, *N,N*-ジメチルホルムアミド/アセトン混液(1:1)に溶かし, 正確に 50 mL とした液につき, 「アセトヘキサミド」の純度試験(5)類縁物質 ジシクロヘキシリウレアを準用して, 試験を行うとき, R_f 値約 0.8 の主スポット以外のスポットを認めない.

N,N'-ジシクロヘキシリカルボジイミド C₆H₁₁N=C=NC₆H₁₁ 無色若しくは白色の結晶又は結晶性の塊. エタノール(95)に溶けるが水で分解し, 白色沈殿を生じる.

融点 35 ~ 36 °C

N,N'-ジシクロヘキシリカルボジイミド・エタノール試液

N,N'-ジシクロヘキシリカルボジイミド 6 g をエタノール(99.5)に溶かし, 100 mL とする.

貯法 気密容器に入れ, 冷所に保存する.

N,N'-ジシクロヘキシリカルボジイミド・無水エタノール試液 *N,N'*-ジシクロヘキシリカルボジイミド・エタノール試液 見よ.

次硝酸ビスマス [医薬品各条]

次硝酸ビスマス試液 L-酒石酸 10 g を水 40 mL に溶かす.

これに次硝酸ビスマス 0.85 g を加え, 1 時間振り混ぜる.

次にヨウ化カリウム溶液(2 → 5) 20 mL を加え, よく振り混ぜる. 24 時間放置した後, ろ過する. この液は遮光して保存する.

L-シスチン HOOCCH(NH₂)CH₂SSCH₂CH(NH₂)COOH [K 9048, L(-)-シスチン, 特級]

L-システイン塩酸塩一水和物 HSCH₂CH(NH₂)COOH · HCl · H₂O [K 8470, 特級]

2,6-ジ-第三ブチル-p-クレゾール 2,6-ジ-t-ブチルクレゾールを見よ。

2,6-ジ-第三ブチル-p-クレゾール試液 2,6-ジ-t-ブチルクレゾール試液を見よ。

ジチオスルエイトール C₄H₁₀O₂S₂ 結晶である。

融点 約 42 °C

1,1'-[3,3'-ジチオビス(2-メチル-1-オキソプロピル)]-L-ジプロリン C₁₈H₂₈N₂O₆S₂ 白色の結晶又は結晶性の粉末で、メタノールにやや溶けにくく、水にはほとんど溶けない。

確認試験 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により測定するとき、波数 2960 cm⁻¹, 1750 cm⁻¹, 1720 cm⁻¹, 1600 cm⁻¹, 1480 cm⁻¹, 1450 cm⁻¹及び 1185 cm⁻¹付近に吸収を認める。

類縁物質 本品 0.10 g をとり、メタノール 10 mL を正確に加えて溶かした液につき、「カプトブリル」の純度試験(3)を準用し、試験を行うとき、R_f 値約 0.2 の主スポット以外のスポットを認めない。

含量 99.0 % 以上。定量法 本品約 0.3 g を精密に量り、メタノール 20 mL に溶かし、水 50 mL を加え、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する(指示薬: プロモチモールブルー試液 3 滴)。ただし、滴定の終点は液の黄色が青緑色を経て青色に変わるとする。同様の方法で空試験を行い、補正する。

0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 1 mL
= 21.628 mg C₁₈H₂₈N₂O₆S₂

ジチゾン C₆H₅NHNHCSN : NC₆H₅ [K 8490, 特級]

ジチゾン液、抽出用 ジチゾン 30 mg をクロロホルム 1000 mL に溶かし、エタノール(95) 5 mL を加える。この液は保存する。用時、この液の必要量をとり、その $\frac{1}{2}$ 容量の薄めた硝酸(1 → 100)を加えて振り混ぜた後、水層を除いて用いる。

ジチゾン試液 ジチゾン 25 mg をエタノール(95) 100 mL に溶かす。用時製する。

シトシン C₄H₅N₃O 白色の結晶性の粉末又は粉末である。

吸光度 E_{1cm}^{1%} (276 nm) : 800 以上(乾燥後、0.04 g, 0.1 mol/L 塩酸試液、10000 mL)。

ジドロゲステロン、定量用 C₂₁H₂₈O₂ [医薬品各条「ジドロゲステロン」。ただし、乾燥したものを定量するとき、ジドロゲステロン(C₂₁H₂₈O₂) 99.0 % 以上を含むもの]

2,4-ジニトロクロルベンゼン 1-クロロ-2,4-ジニトロベンゼンを見よ。

2,4-ジニトロフェニルヒドラジン (NO₂)₂C₆H₃NHNH₂ [K 8480, 特級]

2,4-ジニトロフェニルヒドラジン・エタノール試液 2,4-ジニトロフェニルヒドラジン 1.5 g を硫酸 10 mL 及び水 10 mL の冷混液に溶かし、無アルデヒドエタノール 1 容量及び水 3 容量の混液を加えて 100 mL とし、必要ならば過する。

2,4-ジニトロフェニルヒドラジン試液 2,4-ジニトロフェニル

ヒドラジン 1.5 g を硫酸 10 mL 及び水 10 mL の冷混液に溶かし、水を加えて 100 mL とし、必要ならば過する。

2,4-ジニトロフェニルヒドラジン・ジエチレングリコールジメチルエーテル試液 2,4-ジニトロフェニルヒドラジン 3 g にジエチレングリコールジメチルエーテル 100 mL を加え、加温して溶かす。冷後、必要ならば過する。

2,4-ジニトロフェノール C₆H₄N₂O₅ [K 8467 : 1972, 特級]

2,4-ジニトロフェノール試液 2,4-ジニトロフェノール 0.5 g をエタノール(95) 100 mL に溶かす。

2,4-ジニトロフルオルベンゼン 1-フルオロ-2,4-ジニトロベンゼンを見よ。

1,3-ジニトロベンゼン C₆H₄(NO₂)₂ [K 8482, m-ジニトロベンゼン, 特級]

m-ジニトロベンゼン 1,3-ジニトロベンゼンを見よ。

1,3-ジニトロベンゼン試液 1,3-ジニトロベンゼン 1 g をエタノール(95) 100 mL に溶かす。用時製する。

m-ジニトロベンゼン試液 1,3-ジニトロベンゼン試液を見よ。

1,3-ジニトロベンゼン試液、アルカリ性 テトラメチルアンモニウムヒドロキシド 1 mL にエタノール(99.5) 140 mL を混和し、一部をとり 0.01 mol/L 塩酸で滴定(指示薬: メチルレッド試液)した後、残部をエタノール(99.5)で薄めて 0.008 mol/L 液とする。用時、この液 40 mL に 1,3-ジニトロベンゼンのベンゼン溶液(1 → 20) 60 mL を混和する。

m-ジニトロベンゼン試液、アルカリ性 1,3-ジニトロベンゼン試液、アルカリ性を見よ。

シネオール、定量用 C₁₀H₁₈O 無色透明の液で特異な芳香がある。

屈折率 n_D²⁰ : 1.457 ~ 1.459

比重 d₂₀²⁰ : 0.920 ~ 0.930

純度試験

(1) 類縁物質 (i) 本品 0.2 g をヘキサン 10 mL に溶かし、試料溶液とする。この液につき薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液 5 μL を薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次にヘキサン/酢酸エチル混液(9 : 1)を展開溶媒として約 10 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに 4-メトキシベンズアルデヒド・硫酸試液を均等に噴霧し、105 °C で 5 分間加熱するとき、主スポット以外のスポットを認めない。

(2) 類縁物質 (ii) 本品 0.1 g をヘキサン 25 mL に溶かし、試料溶液とする。この液 2 μL につき、次の条件でガスクロマトグラフ法により試験を行う。各々のピーク面積を自動積分法により測定し、面積百分率法によりシネオールの量を求めるとき、99.0 % 以上である。

操作条件

検出感度及び面積測定範囲以外の操作条件は、「ユーカリ油」の定量法の操作条件を準用する。

検出感度：試料溶液 1 mL を量り、ヘキサンを加えて 100 mL とする。この液 2 μL から得たシネオールのピーク高さがフルスケールの 40 ~ 60 % となる

ように調整する。

面積測定範囲：溶媒のピークの後からシネオールの保持

時間の約 3 倍の範囲

シノブファギン、成分含量測定用 $C_{26}H_{34}O_6 \cdot nH_2O$ 白色の結晶性の粉末で、においてはない。

吸光度 $E_{1\text{cm}}^{1\%}$ (295 nm) : 125 ~ 137 (0.01 g, メタノール, 250 mL). ただし、デシケーター（シリカゲル）で 24 時間乾燥したもの。

純度試験 類縁物質 本品 0.040 g を量り、以下成分含量測定用ブファリンの純度試験を準用する。

含量 98.0 % 以上。含量測定法 本品をデシケーター（シリカゲル）で 24 時間乾燥し、その約 0.01 g を精密に量り、メタノールに溶かし、正確に 10 mL とし、試料溶液とする。この液 20 μL につき、次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行う。各々のピーク面積を自動積分法により測定し、面積百分率法によりシノブファギンの量を求める。

操作条件

検出器：紫外吸光光度計（測定波長：295 nm）

カラム：内径 4 ~ 6 mm, 長さ 15 ~ 30 cm のステンレス管に 5 ~ 10 μm の液体クロマトグラフ用オクタデシルシリル化シリカゲルを充てんする。

カラム温度：40 °C 付近の一定温度

移動相：水/アセトニトリル混液 (1:1)

流量：シノブファギンの保持時間が約 7 分になるように調整する。

カラムの選定：成分含量測定用ブファリン、成分含量測定用シノブファギン及び成分含量測定用レジブフォグニン 0.01 g ずつをメタノールに溶かして 200 mL とする。この液 20 μL につき、上記の条件で操作するとき、ブファリン、シノブファギン、レジブフォグニンの順に溶出し、それぞれのピークが完全に分離するものを用いる。

検出感度：試料溶液 1 mL を正確に量り、メタノールを加えて正確に 100 mL とし、標準溶液 (1) とする。この溶液 1 mL を正確に量り、メタノールを加えて正確に 20 mL とし、標準溶液 (2) とする。標準溶液 (2) 20 μL から得たシノブファギンのピーク面積が自動積分法により測定されるように調整する。また、標準溶液 (1) 20 μL から得たシノブファギンのピーク高さがフルスケールの 20 % 前後となるように調整する。

面積測定範囲：溶媒のピークの後からシノブファギンの保持時間の約 2 倍の範囲

2,4-ジヒドロキシ安息香酸 $C_7H_6O_4$ 白色～微褐色の粉末である。

溶状 本品 1.0 g をエタノール (95) 20 mL に溶かすとき、液は澄明である。

含量 95 % 以上。定量法 本品約 1 g を精密に量り、エタノール (95) 及び水 50 mL を加えて溶かし、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する。

0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 1 mL = 15.412 mg $C_7H_6O_4$

α, α' -ジピリジル 2,2'-ビピリジル 見よ。

1,3-ジ-(4-ピリジル)プロパン $C_{13}H_{14}N_2$ 淡黄色の粉末である。

融点 61 ~ 62 °C

水分 本品 1 g 中、水分は 1 mg 以下とする。

ジフェニル $C_{12}H_{10}$ 白色の結晶又は結晶性の粉末で、特異においがある。アセトン又はジエチルエーテルに溶けやすく、エタノール (95) にやや溶けやすく、水にほとんど溶けない。

融点 68 ~ 72 °C

純度試験 本品 0.1 g をアセトン 5 mL に溶かし、試料溶液とする。この液 2 μL につき、次の条件でガスクロマトグラフ法により試験を行う。各々のピーク面積を自動積分法により測定し、面積百分率法によりジフェニルの量を求めるとき、98.0 % 以上である。

操作条件

検出器：水素炎イオン化検出器

カラム：内径約 3 mm, 長さ約 2 m のガラス管にガスクロマトグラフ用ポリエチレンリコール 20 M を 150 ~ 180 μm のガスクロマトグラフ用ケイソウ土に 10 % の割合で被覆したものを充てんする。

カラム温度：180 °C 付近の一定温度

キャリヤーガス：窒素

流量：ジフェニルの保持時間が約 8 分になるように調整する。

検出感度：試料溶液 1.0 mL にアセトンを加えて 100 mL とした液 2 μL から得たジフェニルのピーク高さがフルスケールの 5 ~ 15 % になるように調整する。

面積測定範囲：溶媒のピークの後からジフェニルの保持時間の約 3 倍の範囲

ジフェニルアミン $(C_6H_5)_2NH$ [K 8487, 特級]

ジフェニルアミン・酢酸試液 ジフェニルアミン 1.5 g に硫酸 1.5 mL 及び酢酸 (100) を加えて溶かし、100 mL とする。

ジフェニルアミン試液 ジフェニルアミン 1 g を硫酸 100 mL に溶かす。無色の液を用いる。

ジフェニルアミン・氷酢酸試液 ジフェニルアミン・酢酸試液を見よ。

ジフェニルイミダゾール $C_{16}H_{12}N_2$ 白色の結晶又は結晶性の粉末で酢酸 (100) に溶けやすく、メタノールにやや溶けにくい。

融点 234 ~ 236 °C

乾燥減量 0.5 % 以下 (0.5 g, 105 °C, 3 時間)。

含量 99.0 % 以上。定量法 本品を乾燥し、その約 0.3 g を精密に量り、酢酸 (100) 70 mL に溶かし、0.1 mol/L 過塩素酸で滴定する（指示薬：クリスタルバイオレット試液 2 滴）。

ジフェニルエーテル $C_{12}H_{10}O$ ゼラニウムようの香氣を有する無色の結晶で、エタノール (95), ジエチルエーテルに溶け、水にほとんど溶けない。

比重 d_{25}^{25} : 1.072 ~ 1.075

沸点 254 ~ 259 °C

融点 28 °C

ジフェニルカルバジド 1,5-ジフェニルカルボノヒドラジド

を見よ。

ジフェニルカルバジド試液 1,5-ジフェニルカルボノヒドラジド試液 見よ。

ジフェニルカルバゾン [K 8489, 特級]

ジフェニルカルバゾン試液 ジフェニルカルバゾン 1 g をエタノール (95) に溶かし, 1000 mL とする。

1,5-ジフェニルカルボノヒドラジド $C_{13}H_{14}N_4O$ [K 8488, 特級]

1,5-ジフェニルカルボノヒドラジド試液 1,5-ジフェニルカルボノヒドラジド 0.2 g をエタノール (95)/酢酸 (100) 混液 (9 : 1) 100 mL に溶かす。

ジフェニルカルボン酸 $C_{17}H_{21}NO$ [医薬品各条]

ジ-n-ブチルエーテル (C_6H_{14})₂O 無色透明の液体で水と混和しない。

比重 d_4^{20} : 0.768 ~ 0.771

2,6-ジ-t-ブチルクレゾール [(CH_3)₃C]₂C₆H₂(CH_3)OH 白色の結晶性の粉末で, エタノール (95) に溶けやすい。

融点 69 ~ 71 °C

強熱残分 0.05 % 以下。

2,6-ジ-t-ブチルクレゾール試液 2,6-ジ-t-ブチルクレゾール 0.1 g をエタノール (95) に溶かし, 10 mL とする。

ジブチルジチオカルバミン酸亜鉛 一般試験法のプラスチック製医薬品容器試験法 見よ。

2,6-ジプロムキノンクロルイミド 2,6-ジプロモ-N-クロロ-1,4-ベンゾキノンモノイミン 見よ。

2,6-ジプロムキノンクロルイミド試液 2,6-ジプロモ-N-クロロ-1,4-ベンゾキノンモノイミン試液 見よ。

2,6-ジプロモ-N-クロロ-1,4-ベンゾキノンモノイミン $C_6H_2Br_2 : ClNO$ [K 8491, 2,6-ジプロモ-N-クロロ-p-ベンゾキノンモノイミン, 特級]

2,6-ジプロモ-N-クロロ-p-ベンゾキノンモノイミン 2,6-ジプロモ-N-クロロ-1,4-ベンゾキノンモノイミン 見よ。

2,6-ジプロモ-N-クロロ-1,4-ベンゾキノンモノイミン試液 2,6-ジプロモ-N-クロロ-1,4-ベンゾキノンモノイミン 0.5 g にメタノールを加えて溶かし, 100 mL とする。

2,6-ジプロモ-N-クロロ-1,4-ベンゾキノンモノイミン試液, 希 2,6-ジプロモ-N-クロロ-1,4-ベンゾキノンモノイミン 0.2 g にメタノールを加えて溶かし, 100 mL とする。

2,6-ジプロモ-N-クロロ-p-ベンゾキノンモノイミン試液 2,6-ジプロモ-N-クロロ-1,4-ベンゾキノンモノイミン試液 見よ。

2,6-ジプロモ-N-クロロ-p-ベンゾキノンモノイミン試液, 希 2,6-ジプロモ-N-クロロ-1,4-ベンゾキノンモノイミン試液, 希 見よ。

ジベンジル $C_{14}H_{14}$ 白色の結晶で, ジエチルエーテルに溶けやすく, メタノール又はエタノール (95) にやや溶けやすく, 水にほとんど溶けない。

融点 50 ~ 54 °C

純度試験 本品 0.032 g をとり, メタノールに溶かし, 正確に 50 mL とし, 試料溶液とする。この液 20 μ L につき, 「注射用硫酸ビンプラスチン」の定量法の操作条件に従い, 液体クロマトグラ法により試験を行うとき, ジベンジル以外のピークを認めない。ただし, 検出感度は試料溶液 10 mL にメタノールを加えて 20 mL とした液 20 μ L か

ら得たジベンジルのピーク高さが 3 ~ 5 cm になるように調整し, 面積測定範囲は主ピークの保持時間の約 1.2 倍の範囲とする。

脂肪油 医薬品各条中の脂肪油。

ジメチルアニリン N,N-ジメチルアニリン 見よ。

N,N-ジメチルアニリン $C_6H_5N(CH_3)_2$ [K 8493 : 1980, 1 級]

4-ジメチルアミノシンナムアルデヒド $C_{11}H_{13}NO$ だいだい色の結晶又は結晶性の粉末で, 特異なにおいがある。希塩酸に溶けやすく, エタノール (95) 又はジエチルエーテルに溶けにくく, 水にほとんど溶けない。

融点 140 ~ 142 °C

純度試験 溶状 本品 0.2 g をエタノール (95) 20 mL に溶かすとき, 液は透明である。

乾燥減量 0.5 % 以下 (1 g, 105 °C, 2 時間)。

強熱残分 0.10 % 以下 (1 g)。

窒素含量 7.8 ~ 8.1 % (105 °C, 2 時間, 乾燥後, 窒素定量法)。

p-ジメチルアミノシンナムアルデヒド 4-ジメチルアミノシンナムアルデヒド 見よ。

4-ジメチルアミノシンナムアルデヒド試液 4-ジメチルアミノシンナムアルデヒドのエタノール (95) 溶液 (1 → 2000) 10 mL に, 用時, 酢酸 (100) 1 mL を加える。

p-ジメチルアミノシンナムアルデヒド試液 4-ジメチルアミノシンナムアルデヒド試液 見よ。

ジメチルアミノフェノール $(CH_3)_2NC_6H_4OH$ 暗紫色の結晶又は結晶性の塊。

融点 85 °C

ジメチルアミノプロピルシリル化シリカゲル, 液体クロマトグラフ用 液体クロマトグラフ用に製造したもの。

4-ジメチルアミノベンジリデンロダニン $C_{12}H_{12}N_2OS_2$ [K 8495, p-ジメチルアミノベンジリデンロダニン, 特級]

p-ジメチルアミノベンジリデンロダニン 4-ジメチルアミノベンジリデンロダニン 見よ。

4-ジメチルアミノベンジリデンロダニン試液 4-ジメチルアミノベンジリデンロダニン 0.02 g をアセトンに溶かし, 100 mL とする。

p-ジメチルアミノベンジリデンロダニン試液 4-ジメチルアミノベンジリデンロダニン試液 見よ。

4-ジメチルアミノベンズアルデヒド $(CH_3)_2NC_6H_4CHO$ [K 8496, p-ジメチルアミノベンズアルデヒド, 特級]

p-ジメチルアミノベンズアルデヒド 4-ジメチルアミノベンズアルデヒド 見よ。

p-ジメチルアミノベンズアルデヒド・塩化第二鉄試液 4-ジメチルアミノベンズアルデヒド・塩化鉄 (III) 試液 見よ。

p-ジメチルアミノベンズアルデヒド・塩化第二鉄試液, 希 4-ジメチルアミノベンズアルデヒド・塩化鉄 (III) 試液, 希 見よ。

4-ジメチルアミノベンズアルデヒド・塩化鉄 (III) 試液 4-ジメチルアミノベンズアルデヒド 0.125 g を硫酸 65 mL 及び水 35 mL の冷混液に溶かし, 塩化鉄 (III) 試液 0.05 mL を加える。調製後 7 日以内に用いる。

4-ジメチルアミノベンズアルデヒド・塩化鉄 (III) 試液, 希

水 80 mL に氷冷しながら 4-ジメチルアミノベンズアルデヒド・塩化鉄(III) 試液 100 mL 及び塩化鉄(III) 試液 0.15 mL を注意して加える。

p-ジメチルアミノベンズアルデヒド・塩化鉄(III) 試液 4-ジメチルアミノベンズアルデヒド・塩化鉄(III) 試液を見よ。

4-ジメチルアミノベンズアルデヒド・塩酸試液 4-ジメチルアミノベンズアルデヒド 1.0 g を冷却しながら塩酸 50 mL に溶かし、エタノール(95) 50 mL を加える。

p-ジメチルアミノベンズアルデヒド・塩酸試液 4-ジメチルアミノベンズアルデヒド・塩酸試液を見よ。

4-ジメチルアミノベンズアルデヒド試液 4-ジメチルアミノベンズアルデヒド 10 g を硫酸 90 mL 及び水 10 mL の冷混液に溶かす。用時製する。

4-ジメチルアミノベンズアルデヒド試液、噴霧用 4-ジメチルアミノベンズアルデヒド 1.0 g を希硫酸 20 mL に溶かす。用時製する。

p-ジメチルアミノベンズアルデヒド試液 4-ジメチルアミノベンズアルデヒド試液を見よ。

p-ジメチルアミノベンズアルデヒド試液、噴霧用 4-ジメチルアミノベンズアルデヒド試液、噴霧用を見よ。

ジメチルアミン $(CH_3)_2NH$ 無色澄明の液で、アミンのような特異なにおいがある。水又はエタノール(99.5)と混和する。アルカリ性である。

比重 d_{20}^{20} : 0.85 ~ 0.93

含量 38.0 ~ 45.0 %. 定量法 本品約 1.0 g を、0.5 mol/L 硫酸 20 mL を正確に入れたフラスコに精密に量り、過量の硫酸を 1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する(指示薬: メチルレッド試液 2 滴)。同様の方法で空試験を行う。

0.5 mol/L 硫酸 1 mL = 45.08 mg C_2H_7N

N,N-ジメチル-n-オクチルアミン $C_{10}H_{23}N$ 本品は、無色の液である。

屈折率 n_D^{20} : 1.424

ジメチルグリオキシム $C_4H_8N_2O_2$ [K 8498, 特級]

ジメチルグリオキシム試液 ジメチルグリオキシム 1 g をエタノール(95)に溶かし、100 mL とする。

ジメチルグリオキシム・チオセミカルバジド試液 A 液: ジメチルグリオキシム 0.5 g を塩酸に溶かし、100 mL とする。用時製する。B 液: チオセミカルバジド 0.1 g に水 50 mL を加え、必要ならば加温して溶かし、薄めた塩酸(1 → 2)を加えて 100 mL とする。用時製する。A 液及び B 液のそれぞれ 10 mL ずつを合わせ、薄めた塩酸(1 → 2)を加えて 100 mL とし、1 時間放置後、24 時間以内に使用する。

ジメチルシリル化シリカゲル(蛍光剤入り)、薄層クロマトグラフ用 薄層クロマトグラフ用ジメチルシリル化シリカゲルに蛍光剤を加えたもの。

ジメチルスルホキシド CH_3SOCH_3 [K 9702, 特級]

ジメチルスルホキシド、吸湿スペクトル用 無色の結晶又は無色澄明の液で、特異なにおいがある。吸湿性が強い。

凝固点 18.3 °C 以上。

純度試験 本品につき、水を対照とし、紫外可視吸光度測

定法により試験を行い、窒素を飽和した後、直ちに吸光度を測定するとき、波長 270 nm で 0.20 以下、275 nm で 0.09 以下、280 nm で 0.06 以下、300 nm で 0.015 以下である。また、波長 260 ~ 350 nm において特異な吸収を認めない。

水分 0.1 % 以下。

2,6-ジメチル-4-(2-ニトロソフェニル)-3,5-ピリジンジカルボン酸ジメチルエステル、薄層クロマトグラフ用 $C_{17}H_{16}N_2O_5$ ニフェジピンのメタノール溶液(1 → 100)にキセノン光を 50000 ルクスの照度で 8 時間照射した後、水浴上でメタノールを留去する。残留物を 1-プロパノールで 4 回再結晶し、デシケーター(減圧、酸化リン(V))で乾燥する。ごくうすい青色の結晶で、クロロホルムに極めて溶けやすく、アセトンに溶けやすく、水にほとんど溶けない。

融点 93 ~ 95 °C

含量 99.0 % 以上。定量法 本品約 0.4 g を精密に量り、酢酸(100) 70 mL を加えて溶かし、0.1 mol/L 過塩素酸で滴定する(電位差滴定法)。同様の方法で空試験を行ひ、補正する。

0.1 mol/L 過塩素酸 1 mL = 32.832 mg $C_{17}H_{16}N_2O_5$

N,N-ジメチル-p-フェニレンジアンモニウム二塩酸塩

$H_2NC_6H_4N(CH_3)_2 \cdot 2HCl$ [K 8193, 二塩化 N, N-ジメチル-p-フェニレンジアンモニウム、特級]

ジメチルホルムアミド **N,N-ジメチルホルムアミド** を見よ。

N,N-ジメチルホルムアミド $HCON(CH_3)_2$ [K 8500, 特級]

N,N-ジメチルホルムアミド、液体クロマトグラフ用 [K 8500, 特級] ただし、本品につき、紫外可視吸光度測定法(層長 1 cm、対照水)により吸光度を測定するとき、波長 270 nm, 280 nm 及び 300 nm におけるそれぞれの吸光度は 0.60 以下、0.15 以下及び 0.05 以下である。

ジメドン $C_8H_{12}O_2$ 白色~微黄色の結晶性の粉末である。

融点 145 ~ 149 °C

ジモルホラミン、定量用 [医薬品各条「ジモルホラミン」] ただし、乾燥したものを定量するとき、ジモルホラミン($C_{20}H_{38}N_4O_4$) 99.0 % 以上を含むもの]

弱塩基性 **DEAE-架橋デキストラン陰イオン交換体(Cl型)** DEAE-架橋デキストラン陰イオン交換体(Cl型)、弱塩基性を見よ。

弱酸性 **CM-架橋セルロース陽イオン交換体(H型)** 多孔性を有する真珠状セルロースを架橋して強度をもたせ、カルボキシルメチル基を導入した弱酸性陽イオン交換体。

重塩酸、核磁気共鳴スペクトル測定用 DCI 核磁気共鳴スペクトル測定用に製造したもの。

臭化アレコリン、薄層クロマトグラフ用 $C_8H_{13}BrNO_3 \cdot HBr$ 白色結晶で水に溶けやすく、メタノールにやや溶けやすく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

融点 169 ~ 171 °C

純度試験 類縁物質 本品 0.050 g をとり、メタノール 10 mL を正確に加えて溶かした液 10 μL につき、「ビンロウジ」の確認試験を準用し、試験を行うとき、 R_f 値約 0.4 の主スポット以外のスポットを認めない。

臭化カリウム KBr [K 8506, 特級]

臭化カリウム、赤外吸収スペクトル用 臭化カリウム単結晶又は臭化カリウムを碎き、200号(75μm)ふるいを通過したものをを集め、120°Cで10時間又は500°Cで5時間乾燥する。これを用いて錠剤を作り、赤外吸収スペクトル測定法により測定するとき、異常な吸収を認めない。

臭化シアン試液 氷冷した水100mLに臭素1mLを加え、激しく振り混ぜた後、氷冷したシアン化カリウム試液を臭素の色がまさに脱色するまで滴加する。この試液はドラフト中で用時製する。この試液の蒸気は極めて有毒であるから取扱いに際し、吸入しないように注意する。

臭化ジスチグミン、定量用 [医薬品各条、「臭化ジスチグミン」ただし、換算した脱水物に対し、臭化ジスチグミン(C₂₂H₃₂Br₂N₄O₄)99.0%以上を含むもの]

臭化水素酸 HBr [K 8509, 特級]

臭化水素酸スコポラミン C₁₇H₂₁NO₄·HBr·3H₂O [医薬品各条]

臭化水素酸スコポラミン、薄層クロマトグラフ用 [医薬品各条、「臭化水素酸スコポラミン」ただし、「アヘンアルカロイド・アトロビン注射液」の確認試験(2)を準用し、試験を行うとき、R_f値約0.7の主スポット以外のスポットを認めないもの]

臭化水素酸セファエリン C₂₈H₃₈N₂O₄·2HBr·xH₂O 白色又は淡黄色の結晶性の粉末である。

純度試験 本品0.01gを移動相10mLに溶かし、試料溶液とする。この液1mLを正確に量り、移動相を加えて正確に10mLとし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液10μLにつき、「トコン」の成分含量測定法を準用し、液体クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液のセファエリン以外のピークの合計面積は標準溶液のセファエリンのピーク面積より大きくなれない。

臭化水素酸ホマトロビン C₁₆H₂₁NO₃·HBr [医薬品各条]

臭化ダクロニウム、薄層クロマトグラフ用 C₃₃H₅₈Br₂N₂O₃ 白色の結晶性の粉末で、水に極めて溶けやすく、エタノール(95)に溶けやすく、無水酢酸にほとんど溶けない。

本品は吸湿性である。

確認試験 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により測定するとき、波数2938cm⁻¹、1737cm⁻¹、1630cm⁻¹、1373cm⁻¹、1233cm⁻¹及び1031cm⁻¹付近に吸収を認める。

純度試験 類縁物質 本品0.010gをエタノール(95)2mLに溶かし、試液溶液とする。この液1mLを正確に量り、エタノール(95)を加えて正確に100mLとし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液10μLにつき、「臭化ベンクロニウム」の純度試験(2)類縁物質を準用し、試験を行うとき、試料溶液から得た主スポット以外のスポットは、標準溶液から得たスポットより濃くない。

水分 1.0%以下(1g、容量滴定法、直接滴定)。

含量 換算した脱水物に対し、98.0%以上。定量法 本品約0.2gを精密に量り、無水酢酸50mLを加え、加温して溶かし、0.1mol/L過塩素酸で滴定する(電位差滴定法)。同様の方法で空試験を行い、補正する。

0.1mol/L過塩素酸 1mL=34.532mg C₃₃H₅₈Br₂N₂O₃

臭化n-デシルトリメチルアンモニウム C₁₃H₃₀NBr 白色の粉末である。

融点: 約232°C(分解)。

含量 99%以上。定量法 本品約0.5gを精密に量り、水50mLに溶かし、0.1mol/L硝酸銀液で滴定する(指示薬:クロム酸カリウム試液1mL)。同様の方法で空試験を行い、補正する。

0.1mol/L硝酸銀液 1mL = 28.029mg C₁₃H₃₀NBr

臭化n-デシルトリメチルアンモニウム試液, 0.005mol/L

リン酸二水素カリウム6.94g、リン酸水素二ナトリウム十二水和物3.22g及び臭化n-デシルトリメチルアンモニウム1.40gを水に溶かし、1000mLとする。

臭化テトラn-ブチルアンモニウム [CH₃(CH₂)₃]₄NBr 白色の結晶又は結晶性の粉末で、わずかに特異なにおいがある。

融点 101~105°C

純度試験 溶状 本品1.0gを水20mLに溶かすとき、液は無色透明である。

含量 98.0%以上。定量法 本品約0.5gを精密に量り、水50mLに溶かし、希硝酸5mLを加え、強く振り混ぜながら0.1mol/L硝酸銀液で滴定する(電位差滴定法)。同様の方法で空試験を行い、補正する。

0.1mol/L硝酸銀液 1mL = 32.237mg C₁₆H₃₆NBr

臭化テトラn-ヘプチルアンモニウム [CH₃(CH₂)₆]₄NBr 白色の結晶又は結晶性の粉末で、わずかに特異なにおいがある。

融点 87~89°C

含量 98.0%以上。定量法 本品約0.5gを精密に量り、薄めたアセトニトリル(3→5)50mLに溶かし、希硝酸5mLを加え、強く振り混ぜながら0.1mol/L硝酸銀液で滴定する(電位差滴定法)。同様の方法で空試験を行い、補正する。

0.1mol/L硝酸銀液 1mL = 49.02mg C₂₈H₆₀NBr

臭化テトラn-ペンチルアンモニウム [CH₃(CH₂)₄]₄NBr 白色の結晶又は結晶性の粉末で、吸湿性である。

融点 100~101°C

臭化ナトリウム NaBr [K 8514, 特級]

臭化プロパンテリン C₂₃H₃₀BrNO₃ [医薬品各条]

臭化ヨウ素(II) IBr 黒褐色の結晶又は塊で、水、エタノール(95)、酢酸(100)、ジエチルエーテル又は二硫化炭素に溶ける。

融点 40°C

貯法 遮光したガラス容器に入れ、冷所に保存する。

臭化リチウム LiBr 白色の結晶又は結晶性の粉末で、吸湿性である。

塩化物 0.1%以下

硫酸塩 0.01%以下

重クロム酸カリウム 二クロム酸カリウムを見よ。

重クロム酸カリウム(標準試薬) 二クロム酸カリウム(標準試薬)を見よ。

重クロム酸カリウム試液 二クロム酸カリウム試液を見よ。

重クロム酸カリウム・硫酸試液 二クロム酸カリウム・硫酸試

- 液 見よ.
- ショウ酸 シュウ酸二水和物 見よ.
- ショウ酸アンモニウム シュウ酸アンモニウム一水和物 見よ.
- ショウ酸アンモニウム一水和物 $(\text{NH}_4)_2\text{C}_2\text{O}_4 \cdot \text{H}_2\text{O}$ [K 8521, しゅう酸アンモニウム一水和物, 特級]
- ショウ酸アンモニウム試液 シュウ酸アンモニウム一水和物 3.5 g を水に溶かし, 100 mL とする (0.25 mol/L).
- ショウ酸塩 pH 標準液 一般試験法の pH 測定法の シュウ酸塩 pH 標準液 見よ.
- ショウ酸試液 シュウ酸二水和物 6.3 g を水に溶かし, 100 mL とする (0.5 mol/L).
- ショウ酸ナトリウム (標準試薬) $\text{C}_2\text{O}_4\text{Na}_2$ [K 8005, しゅう酸ナトリウム, 容量分析用標準物質]
- ショウ酸 N -(1-ナフチル)- N' -ジエチルエチレンジアミン N , N -ジエチル- N' -1-ナフチルエチレンジアミン シュウ酸塩 見よ.
- ショウ酸 N -(1-ナフチル)- N' -ジエチルエチレンジアミン・アセトン試液 N , N -ジエチル- N' -1-ナフチルエチレンジアミン・ショウ酸塩・アセトン試液 見よ.
- ショウ酸 N -(1-ナフチル)- N' -ジエチルエチレンジアミン試液 N , N -ジエチル- N' -1-ナフチルエチレンジアミン シュウ酸塩試液 見よ.
- ショウ酸二水和物 $\text{H}_2\text{C}_2\text{O}_4 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$ [K 8519, しゅう酸二水和物, 特級]
- 重水, 核磁気共鳴スペクトル測定用 D_2O 核磁気共鳴スペクトル測定用に製造したもの.
- 重水素化クロロホルム, 核磁気共鳴スペクトル測定用 CDCl_3 核磁気共鳴スペクトル測定用に製造したもの.
- 重水素化ジメチルスルホキシド, 核磁気共鳴スペクトル測定用 $(\text{CD}_3)_2\text{SO}$ 核磁気共鳴スペクトル測定用に製造したもの.
- 重水素化メタノール, 核磁気共鳴スペクトル測定用 CD_3OD 核磁気共鳴スペクトル測定用に製造したもの.
- 重水素化溶媒, 核磁気共鳴スペクトル測定用 核磁気共鳴スペクトル測定用に製造したもの. 重水素化クロロホルム (CDCl_3), 重水素化ジメチルスルホキシド [$(\text{CD}_3)_2\text{SO}$], 重水 (D_2O), 重水素化ピリジン ($\text{C}_5\text{D}_5\text{N}$) などがある.
- 臭素 Br [K 8529, 特級]
- 臭素・酢酸試液 酢酸ナトリウム三水和物 10 g を酢酸 (100) に溶かして 100 mL とし, 臭素 5 mL を加えて振り混ぜる.
- 貯法 遮光してなるべく冷所に保存する.
- 臭素酸カリウム KBrO_3 [K 8530, 特級]
- 臭素試液 臭素を水に飽和して製する. 栓にワセリンを塗った共栓瓶に臭素 2 ~ 3 mL をとり, 冷水 100 mL を加えて密栓して振り混ぜる.
- 貯法 遮光してなるべく冷所に保存する.
- 臭素・シクロヘキサン試液 臭素 0.1 g をシクロヘキサンに溶かし, 100 mL とする. この液 2 mL にシクロヘキサンを加えて 10 mL とする. 用時製する.
- 臭素・水酸化ナトリウム試液 水酸化ナトリウム溶液 (3 → 100) 100 mL に臭素 0.2 mL を加える. 用時製する.
- 臭素・四塩化炭素試液 臭素 0.1 g を四塩化炭素に溶かし, 100 mL とする. この液 2 mL に四塩化炭素を加えて 10 mL とする. 用時製する.
- mL とする. 用時製する.
- 酒石酸 L-酒石酸 見よ.
- L-酒石酸 $\text{C}_4\text{H}_6\text{O}_6$ [K 8532, L(+)-酒石酸, 特級]
- L-酒石酸アンモニウム $\text{C}_4\text{H}_{12}\text{N}_2\text{O}_6$ [K 8534, (+)-酒石酸アンモニウム, 特級]
- 酒石酸アンモニウム L-酒石酸アンモニウム 見よ.
- 酒石酸カリウム $2\text{C}_4\text{H}_4\text{K}_2\text{O}_6 \cdot \text{H}_2\text{O}$ [K 8535, 酒石酸カリウム-水 (2/1), 特級]
- 酒石酸カリウムナトリウム 酒石酸ナトリウムカリウム四水和物 見よ.
- 酒石酸緩衝液, pH 3.0 L-酒石酸 1.5 g 及び酒石酸ナトリウム二水和物 2.3 g を水に溶かし, 1000 mL とする.
- 酒石酸水素ナトリウム 酒石酸水素ナトリウム一水和物 見よ.
- 酒石酸水素ナトリウム一水和物 $\text{NaHC}_4\text{H}_4\text{O}_6 \cdot \text{H}_2\text{O}$ [K 8538, (+)-酒石酸水素ナトリウム一水和物, 特級]
- 酒石酸水素ナトリウム試液 酒石酸水素ナトリウム一水和物 1 g を水に溶かし, 10 mL とする (0.5 mol/L). 用時製する.
- 酒石酸第一鉄試液 酒石酸鉄 (II) 試液 見よ.
- 酒石酸鉄 (II) 試液 硫酸鉄 (II) 七水和物 1 g, 酒石酸カリウムナトリウム四水和物 2 g 及び亜硫酸水素ナトリウム 0.1 g を水に溶かし, 100 mL とする.
- 酒石酸ナトリウム 酒石酸ナトリウム二水和物 見よ.
- 酒石酸ナトリウムカリウム四水和物 $\text{KNaC}_4\text{H}_4\text{O}_6 \cdot 4\text{H}_2\text{O}$ [K 8536, (+)-酒石酸ナトリウムカリウム四水和物, 特級]
- 酒石酸ナトリウム二水和物 $\text{C}_4\text{H}_4\text{Na}_2\text{O}_6 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$ [K 8540, (+)-酒石酸ナトリウム二水和物, 特級]
- 酒石酸レバロルファン, 定量用 $\text{C}_{19}\text{H}_{25}\text{NO} \cdot \text{C}_4\text{H}_6\text{O}_6$ [医薬品 各条, 「酒石酸レバロルファン」ただし, 乾燥したものを定量するとき, 酒石酸レバロルファン ($\text{C}_{19}\text{H}_{25}\text{NO} \cdot \text{C}_4\text{H}_6\text{O}_6$) 99.0 % 以上を含むもの]
- 硝酸 HNO_3 [K 8541, 特級, 濃度 69 ~ 70 %, 密度約 1.42 g/mL]
- 硝酸, 希 硝酸 10.5 mL に水を加えて 100 mL とする (10 %).
- 硝酸, 発煙 [K 8739, 発煙硝酸, 特級, 濃度 97.0 % 以上, 密度約 1.52 g/mL]
- 硝酸アンモニウム NH_4NO_3 [K 8545, 特級]
- 硝酸カリウム KNO_3 [K 8548, 特級]
- 硝酸カルシウム 硝酸カルシウム四水和物 見よ.
- 硝酸カルシウム四水和物 $\text{Ca}(\text{NO}_3)_2 \cdot 4\text{H}_2\text{O}$ [K 8549, 特級]
- 硝酸銀 AgNO_3 [K 8550, 特級]
- 硝酸銀・アンモニア試液 硝酸銀 1 g を水 20 mL に溶かし, かき混ぜながらアンモニア試液を沈殿がほとんど溶けるまで滴加する.
- 貯法 遮光した容器に密栓して保存する.
- 硝酸銀試液 硝酸銀 17.5 g を水に溶かし, 1000 mL とする (0.1 mol/L).
- 貯法 遮光して保存する.
- 硝酸コバルト 硝酸コバルト (II) 六水和物 見よ.
- 硝酸コバルト (II) 六水和物 $\text{Co}(\text{NO}_3)_2 \cdot 6\text{H}_2\text{O}$ [K 8552, 特級]

硝酸ジルコニル 硝酸ジルコニル二水和物 見よ.
硝酸ジルコニル二水和物 $\text{ZrO}(\text{NO}_3)_2 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$ [K 8553 : 1961, 特級]

硝酸ストリキニーネ, 定量用 $\text{C}_{21}\text{H}_{22}\text{N}_2\text{O}_2 \cdot \text{HNO}_3$ 硝酸ストリキニーネ 1 g に水 14 mL 及び活性炭約 10 mg を加え, 水浴中で 10 分間加熱する. 熱時ろ過し, ろ液を急冷して結晶を析出させた後, 結晶をろ取する. この結晶に水 8 mL を加え, 再び水浴中で加熱して溶かした後, 熱時ろ過して急冷し, 析出した結晶をろ取する. 水 8 mL を用い, 更に 1 回この操作を繰り返した後, 結晶をデシケーター(減圧, シリカゲル)で 24 時間乾燥する. 無色又は白色の結晶又は結晶性の粉末で, 水又はグリセリンにやや溶けにくく, エタノール(95)に溶けにくく, ジエチルエーテルにほとんど溶けない.

純度試験 類縁物質 本品 0.035 g を移動相 100 mL に溶かし, 試料溶液とする. この液 2 mL を正確に量り, 移動相を加えて正確に 100 mL とし, 標準溶液(1)とする. 試料溶液及び標準溶液(1) 20 μL につき, 次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行う. それぞれの液の各々のピーク面積を自動積分法により測定するとき, 試料溶液のストリキニーネ以外のピークの合計面積は標準溶液(1)のストリキニーネのピーク面積より大きくない.

操作条件

検出感度及び面積測定範囲以外の操作条件は, 「ホミカ」の定量法の操作条件を準用する.

検出感度: 標準溶液(1) 1 mL を正確に量り, 移動相を加えて正確に 40 mL とし, 標準溶液(2)とする. 標準溶液(2) 20 μL から得たストリキニーネのピーク面積が自動積分法により測定されるように調整する. また, 標準溶液(1) 20 μL から得たストリキニーネのピーク高さがフルスケールの 20 % 前後となるように調整する.

面積測定範囲: 溶媒のピークの後からストリキニーネの保持時間の約 3 倍の範囲

乾燥減量 0.5 % 以下 (0.2 g, 105 °C, 3 時間).

含量 換算した乾燥物に対し, 99.0 % 以上. 定量法 本品約 0.5 g を精密に量り, 無水酢酸/酢酸(100)混液(4:1) 40 mL を加え, 必要ならば加温して溶かし, 冷後, 0.1 mol/L 過塩素酸で滴定する(電位差滴定法). 同様の方法で空試験を行い, 補正する.

0.1 mol/L 過塩素酸 1 mL = 39.743 mg $\text{C}_{21}\text{H}_{22}\text{N}_2\text{O}_2 \cdot \text{HNO}_3$

硝酸セリウム(III) 試液 硝酸セリウム(III) 六水和物 0.44 g を水に溶かし, 1000 mL とする.

硝酸セリウム(III) 六水和物 $\text{Ce}(\text{NO}_3)_3 \cdot 6\text{H}_2\text{O}$ 無色~淡黄色の結晶性の粉末で, 水に溶ける.

純度試験

- (1) 塩化物 0.036 % 以下.
- (2) 硫酸塩 0.120 % 以下.

含量 98.0 % 以上. 定量法 本品約 1.5 g を精密に量り, 硫酸 5 mL を加え, 白煙が激しく発生するまで加熱する. 冷後, 水 200 mL を加え, 0.1 mol/L 硝酸銀液 5 mL 及びペルオキソ二硫酸アンモニウム 5 g を加えて溶かし, 15 分間煮沸する. 冷後, 1,10-フェナントロリン試液 2

滴を加え, 0.1 mol/L 硫酸アンモニウム鉄(II)液で, 液の淡青色が赤色に変わるまで滴定する.

$$\begin{aligned} & 0.1 \text{ mol/L 硫酸アンモニウム鉄(II)液 } 1 \text{ mL} \\ & = 43.42 \text{ mg Ce}(\text{NO}_3)_3 \cdot 6\text{H}_2\text{O} \end{aligned}$$

硝酸第一セリウム 硝酸セリウム(III) 六水和物 見よ.

硝酸第一セリウム試液 硝酸セリウム(III) 試液 見よ.

硝酸第二鉄 硝酸鉄(III) 九水和物 見よ.

硝酸第二鉄試液 硝酸鉄(III) 試液 見よ.

硝酸チアミン $\text{C}_{12}\text{H}_{17}\text{N}_5\text{O}_4\text{S}$ [医薬品各条]

硝酸鉄(III) 九水和物 $\text{Fe}(\text{NO}_3)_3 \cdot 9\text{H}_2\text{O}$ [K 8559, 特級]

硝酸鉄(III) 試液 硝酸鉄(III) 九水和物 1 g を pH 2.0 の

塩酸・塩化カリウム緩衝液に溶かし, 300 mL とする.

硝酸デヒドロコリダリン, 成分含量測定用 $\text{C}_{22}\text{H}_{24}\text{N}_2\text{O}_7$ 黄色の結晶又は結晶性の粉末である. メタノールにやや溶けにくく, 水, エタノール(95)又はアセトニトリルに溶けにくく, ジエチルエーテルにほとんど溶けない.

融点 約 240 °C (分解).

吸光度 $E_{1\text{cm}}^{1\%}$ (333 nm) : 577 ~ 642 (3 mg, 水, 500 mL). ただし, デシケーター(シリカゲル)で 1 時間以上乾燥したもの.

純度試験 類縁物質

(1) 本品 5.0 mg を水/メタノール混液(1:1) 1 mL に溶かし, 試料溶液とする. この液 0.5 mL を正確に量り, 水/メタノール混液(1:1)を加えて正確に 50 mL とし, 標準溶液とする. これらの液につき, 薄層クロマトグラフ法により試験を行う. 試料溶液及び標準溶液 5 μL ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲルで調製した薄層板にスポットし, 速やかにメタノール/水/酢酸(100)混液(20:1:1)を展開溶媒として約 10 cm 展開した後, 薄層板を風乾する. これに紫外線(主波長 365 nm)を照射するとき, また, 噴霧用ドライゲンドルフ試液を噴霧するとき, 試料溶液から得た主スポット以外のスポットは, 標準溶液から得たスポットより濃くない.

(2) 本品 5.0 mg を移動相 10 mL に溶かし, 試料溶液とする. この液 1 mL を正確に量り, 移動相を加えて正確に 100 mL とし, 標準溶液とする. 試料溶液及び標準溶液 5 μL につき, 次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行う. それぞれの液の各々のピーク面積を自動積分法により測定するとき, 溶媒ピークの面積を除いた試料溶液のデヒドロコリダリン以外のピークの合計面積は, 標準溶液のデヒドロコリダリンのピーク面積より大きくない.

試験条件

カラム, カラム温度, 移動相及び流量は「エンゴサク」の成分含量測定法の試験条件を準用する.

検出器: 紫外吸光度計(測定波長: 230 nm)

面積測定範囲: 溶媒のピークの後からデヒドロコリダリンの保持時間の約 3 倍の範囲

システム適合性

システムの性能及びシステムの再現性は「エンゴサク」の成分含量測定法のシステム適合性を準用する.

検出の確認：標準溶液 1 mL を正確に量り、移動相を加えて正確に 20 mL とする。この液 5 μ L から得たデヒドロコリダリンのピーク面積が自動積分法により測定されるように調整する。また、標準溶液 5 μ L から得たデヒドロコリダリンのピーク高さがフルスケールの 20 % 前後になるよう調整する。

硝酸ナトリウム NaNO_3 [K 8562, 特級]

硝酸ナファゾリン $\text{C}_{14}\text{H}_{14}\text{N}_2 \cdot \text{HNO}_3$ [医薬品各条]

硝酸ナファゾリン、定量用 [医薬品各条、「硝酸ナファゾリン」ただし、乾燥したものを定量するとき、硝酸ナファゾリン ($\text{C}_{14}\text{H}_{14}\text{N}_2 \cdot \text{HNO}_3$) 99.0 % 以上を含むもの]

硝酸鉛 硝酸鉛 (II) 見よ。

硝酸鉛 (II) $\text{Pb}(\text{NO}_3)_2$ [K 8563, 特級]

硝酸ニアンモニウムセリウム (IV) $\text{Ce}(\text{NH}_4)_2(\text{NO}_3)_6$ [K 8556, 特級]

硝酸ニアンモニウムセリウム (IV) 試液 硝酸ニアンモニウムセリウム (IV) 6.25 g を薄めた希硝酸 (9 → 50) 160 mL に溶かす。調製後 3 日以内に使用する。

硝酸バリウム $\text{Ba}(\text{NO}_3)_2$ [K 8565, 特級]

硝酸バリウム試液 硝酸バリウム 6.5 g を水に溶かし、100 mL とする (0.25 mol/L)。

硝酸ビスマス 硝酸ビスマス五水和物 見よ。

硝酸ビスマス五水和物 $\text{Bi}(\text{NO}_3)_3 \cdot 5\text{H}_2\text{O}$ [K 8566, 特級]

硝酸ビスマス試液 硝酸ビスマス五水和物 5.0 g を酢酸 (100) に溶かし、100 mL とする。

硝酸ビスマス・ヨウ化カリウム試液 硝酸ビスマス五水和物 0.35 g を酢酸 (100) 4 mL 及び水 16 mL を加えて溶かし、A 液とする。ヨウ化カリウム 8 g を水 20 mL に溶かし、B 液とする。A 液及び B 液の等容量混液 20 mL に希硫酸 80 mL 及び過酸化水素 (30) 0.2 mL を加える。用時製する。

硝酸マグネシウム 硝酸マグネシウム六水和物 見よ。

硝酸マグネシウム六水和物 $\text{Mg}(\text{NO}_3)_2 \cdot 6\text{H}_2\text{O}$ [K 8567, 特級]

焦性ブドウ酸ナトリウム 微生物試験用に製造したもの。

消毒用エタノール エタノール、消毒用 見よ。

生薬純度試験用アセトン アセトン、生薬純度試験用 見よ。

生薬純度試験用エーテル ジエチルエーテル、生薬純度試験用 見よ。

生薬純度試験用ジエチルエーテル ジエチルエーテル、生薬純度試験用 見よ。

生薬純度試験用ヘキサン ヘキサン、生薬純度試験用 見よ。

蒸留水、注射用 [医薬品各条、第二部「注射用水」ただし、蒸留して製したもの]

触媒用ラニーニッケル ラニーニッケル、触媒用 見よ。

植物油 医薬品各条の植物性脂肪油。

シリカゲル 無定形の一部水加性のケイ酸で、不定形ガラス状顆粒である。乾燥剤用として水分吸着によって変色する変色料を含ませたものもある。110 °C で乾燥して元の色に戻す。

強熱減量 6 % 以下 (2 g, 950 ± 50 °C)。

水分吸着能 31 % 以上。本品約 10 g を精密に量り、

比重 1.19 の硫酸で湿度を 80 % とした容器内に 24 時間放置した後、質量を量り、試料に対する增量を求める。

シリカゲル、液体クロマトグラフ用 液体クロマトグラフ用に製造したもの。

シリカゲル、ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの。

シリカゲル、薄層クロマトグラフ用 薄層クロマトグラフ用に製造したもの。

シリカゲル、薄層クロマトグラフ用 (蛍光剤入り) 薄層クロマトグラフ用シリカゲルに蛍光剤を加えたもの。

シリカゲル、薄層クロマトグラフ用 (混合蛍光剤入り) 薄層クロマトグラフ用シリカゲルに混合蛍光剤を加えたもの。

シリコーン樹脂 シリコン樹脂 見よ。

シリコン樹脂 淡灰色半透明の粘性の液又はペースト状の物質で、においてほとんどない。

屈折率及び粘度 本品 15 g をソックスレー抽出器に入れ、四塩化炭素 150 mL で 3 時間抽出し、抽出液を水浴上で蒸発して得た液体の動粘度は 100 ~ 1100 mm²/s (25 °C), 屈折率は 1.400 ~ 1.410 (25 °C) である。

比重 0.98 ~ 1.02

乾燥減量 屈折率及び粘度の項の抽出残留物につき 0.45 ~ 2.25 g (100 °C, 1 時間)。

シリコーン油 シリコン油 見よ。

シリコン油 無色透明の液で、においてはない。

粘度 50 ~ 100 mm²/s

ジルコニル・アリザリン S 試液 ジルコニル・アリザリンレッド S 試液 見よ。

ジルコニル・アリザリンレッド S 試液 硝酸ジルコニル二水和物 0.2 g を希塩酸 5 mL に溶かし、アリザリンレッド S 試液 10 mL を加え、更に水を加えて 30 mL とする。

シンコニジン $\text{C}_{19}\text{H}_{22}\text{N}_2\text{O}$ 白色の結晶又は結晶性の粉末で、メタノール、エタノール (95) 又はクロロホルムにやや溶けやすく、ジエチルエーテルにやや溶けにくく、水にほとんど溶けない。本品のエタノール (95) 溶液 (1 → 100) は左旋性である。融点：約 207 °C

含量 98.0 % 以上。定量法 本品約 0.3 g を精密に量り、酢酸 (100) 20 mL に溶かし、無水酢酸 80 mL を加え、0.1 mol/L 過塩素酸で滴定する (指示薬：クリスタルバイオレット試液 3 滴)。同様の方法で空試験を行ひ、補正する。

0.1 mol/L 過塩素酸 1 mL = 14.720 mg $\text{C}_{19}\text{H}_{22}\text{N}_2\text{O}$

シンコニン $\text{C}_{19}\text{H}_{22}\text{N}_2\text{O}$ [K 8571 : 1979, 特級]

ジンコン $\text{C}_{20}\text{H}_{16}\text{N}_4\text{O}_6\text{S}$ [K 9517, 特級]

ジンコン試液 ジンコン 0.1 g を 1 mol/L 水酸化ナトリウム液 2 mL に溶かし、水を加えて 100 mL とする。

親水性シリカゲル、液体クロマトグラフ用 液体クロマトグラフ用に製造した多孔性ジオール化シリカゲルで、粒子径 5 ~ 10 μm のもの。

水銀 Hg [K 8572, 特級]

水酸化カリウム KOH [K 8574, 特級]

水酸化カリウム・エタノール試液 水酸化カリウム 10 g をエタノール (95) に溶かし、100 mL とする。用時製する。

水酸化カリウム・エタノール試液, 0.1 mol/L 希水酸化カリ

ウム・エタノール試液 1 mL にエタノール (95) を加えて 5 mL とする。用時製する。

水酸化カリウム・エタノール試液 希 水酸化カリウム 35 g を水 20 mL に溶かし、エタノール (95) を加えて 1000 mL とする (0.5 mol/L)。密栓して保存する。

水酸化カリウム試液 水酸化カリウム 6.5 g を水に溶かし、100 mL とする (1 mol/L)。ポリエチレン瓶に保存する。

水酸化カリウム試液, 0.02 mol/L 水酸化カリウム試液 2 mL に水を加えて 100 mL とする。用時製する。

水酸化カリウム試液, 0.05 mol/L 水酸化カリウム試液 5 mL に水を加えて 100 mL とする。用時製する。

水酸化カリウム試液, 8 mol/L 水酸化カリウム 52 g を水に溶かし、100 mL とする。ポリエチレン瓶に保存する。

水酸化カルシウム Ca(OH)₂ [K 8575, 特級]

水酸化カルシウム, pH 測定用 [K 8575, 特級]。ただし、23 ~ 27 °C で得た飽和溶液の 25 °C における pH が 12.45 のもの。

水酸化カルシウム試液 水酸化カルシウム 3 g に冷蒸留水 1000 mL を加え、1 時間時々強く振り混ぜた後に静置し、用時、上澄液を用いる (0.04 mol/L)。

水酸化カルシウム pH 標準液 一般試験法の pH 測定法を見よ。

水酸化第二銅 水酸化銅 (II) を見よ。

水酸化銅 (II) Cu(OH)₂ 淡青色の粉末で水にほとんど溶けない。

含量 Cu(OH)₂ として 95.0 % 以上。定量法 本品約 0.6 g を精密に量り、塩酸 3 mL 及び水を加えて溶かし、正確に 500 mL とする。この液 25 mL を正確に量り、水 75 mL、塩化アンモニウム溶液 (3 → 50) 10 mL、薄めたアンモニア水 (28) (1 → 10) 3 mL 及びムレキシド・塩化ナトリウム指示薬 0.05 g を加え、0.01 mol/L エチレンジアミン四酢酸二水素二ナトリウム液で滴定する。ただし、滴定の終点は、液の色が黄緑色から赤紫色に変わるとときとする。

0.01 mol/L エチレンジアミン四酢酸二水素二ナトリウム液 1 mL = 0.9756 mg Cu(OH)₂

水酸化ナトリウム NaOH [K 8576, 特級]

水酸化ナトリウム試液 水酸化ナトリウム 4.3 g を水に溶かし、100 mL とする (1 mol/L)。ポリエチレン瓶に保存する。

水酸化ナトリウム試液, 0.01 mol/L 水酸化ナトリウム試液 10 mL に水を加えて 1000 mL とする。用時製する。

水酸化ナトリウム試液, 0.05 mol/L 0.5 mol/L 水酸化ナトリウム試液 10 mL に水を加え、100 mL とする。

水酸化ナトリウム試液, 0.2 mol/L 水酸化ナトリウム 8.0 g に新たに煮沸して冷却した水を加えて溶かし、1000 mL とする。用時製する。

水酸化ナトリウム試液, 0.5 mol/L 水酸化ナトリウム 22 g を水に溶かし、1000 mL とする。ポリエチレン瓶に保存する。

水酸化ナトリウム試液, 2 mol/L 水酸化ナトリウム 8.6 g を水に溶かし、100 mL とする。ポリエチレン瓶に保存する。

水酸化ナトリウム試液, 4 mol/L 水酸化ナトリウム 168 g を水に溶かし、1000 mL とする。ポリエチレン瓶に保存する。

水酸化ナトリウム試液, 8 mol/L 水酸化ナトリウム 336 g を水に溶かし、1000 mL とする。ポリエチレン瓶に保存する。

水酸化ナトリウム試液 希 水酸化ナトリウム 4.3 g を新たに煮沸して冷却した水に溶かし、1000 mL とする。用時製する (0.1 mol/L)。

水酸化ナトリウム・ジオキサン試液 水酸化ナトリウム 0.80 g を 1,4-ジオキサン・水混液 (3 : 1) に溶かし、100 mL とする。

水酸化ナトリウム・メタノール試液 水酸化ナトリウム 4 g にメタノールを加えてよく振り混ぜて 100 mL とする。これを遠心分離して得た上澄液 50 mL をとり、メタノールを加えて 500 mL とする。用時製する。

水酸化バリウム 水酸化バリウム八水和物 を見よ。

水酸化バリウム試液 水酸化バリウム八水和物を新たに煮沸して冷却した水に飽和する。用時製する (0.25 mol/L)。

水酸化バリウム八水和物 Ba(OH)₂ · 8H₂O [K 8577, 特級] 密栓して保存する。

水素 H₂ [K 0512, 標準物質, 3 級] 99.99 % 以上。

水素化ホウ素ナトリウム NaBH₄ 白色～灰白色の結晶、粉末又は塊である。本品は水に溶けやすい。

含量 95 % 以上。定量法 本品 0.25 g を精密に量り、薄めた水酸化ナトリウム試液 (30 → 100) 20 mL に溶かし、水を加えて正確に 500 mL にする。その 20 mL を正確に量り、共通すり合わせヨウ素フラスコに入れ、氷冷する。ヨウ素試液 40 mL を正確に加え、10 分間暗所に放置後、薄めた硫酸 (2 → 12) 10 mL を正確に加えて、0.1 mol/L チオ硫酸ナトリウム液で逆滴定する (指示薬: でんぶん試液)。同様の方法で空試験を行い、補正する。

$$\begin{aligned} & 0.1 \text{ mol/L } \text{チオ硫酸ナトリウム } 1 \text{ mL} \\ & = 0.4729 \text{ mg NaBH}_4 \end{aligned}$$

水分測定用イミダゾール 一般試験法の水分測定法 を見よ。

水分測定用エチレングリコール エチレングリコール、水分測定用 を見よ。

水分測定用塩化カルシウム 塩化カルシウム、水分測定用 を見よ。

水分測定用クロロホルム 一般試験法の水分測定法 を見よ。

水分測定用試液 一般試験法の水分測定法 を見よ。

水分測定用ジエチレングリコールモノエチルエーテル 一般試験法の水分測定法 を見よ。

水分測定用炭酸プロピレン 一般試験法の水分測定法 を見よ。

水分測定用ピリジン 一般試験法の水分測定法 を見よ。

水分測定用ホルムアミド ホルムアミド、水分測定用 を見よ。

水分測定用メタノール 一般試験法の水分測定法 を見よ。

水分測定用 2-メチルアミノピリジン 一般試験法の水分測定法 を見よ。

スウェルチアマリン、薄層クロマトグラフ用 C₁₆H₂₂O₁₀ 白色の粉末で、ほとんど味はない。

融点 113 ~ 114 °C

純度試験 類縁物質 本品 2.0 mg にエタノール (95) 1 mL を正確に加えて溶かした液 20 μL につき、「センブリ」の確認試験を準用し、試験を行うとき、R_f 値約 0.5 の主スポット以外のスポットを認めない。

スズ Sn [K 8580, すず, 特級]

スズ、熱分析用 [K 8580, すず、特級。ただし、純度 99.99 % 以上のもの]

ズダンⅢ $C_{22}H_{16}N_4O$ 赤褐色の粉末で、酢酸(100)又はクロロホルムに溶け、水、エタノール(95)、アセトン又はジエチルエーテルに溶けない。

融点 170 ~ 190 °C

ズダンⅢ試液 ズダンⅢ 0.01 g をエタノール(95) 5 mL に溶かし、ろ過し、ろ液にグリセリン 5 mL を加える。用時製する。

スチレン C_8H_8 無色透明の液体である。

比重 0.902 ~ 0.910

純度試験 本品 1 μ L につき、次の条件でガスクロマトグラフ法により試験を行う。各々のピーク面積を自動積分法により測定し、面積百分率法によりスチレンの量を求めるとき、99 % 以上である。

操作条件

検出器：熱伝導度型検出器

カラム：内径約 3 mm、長さ約 2 m のガラス管にガスクロマトグラフ用ポリエチレングリコール 20 M を 180 ~ 250 μ m のガスクロマトグラフ用ケイソウ土に 10 % の割合で被覆したものを充てんする。

カラム温度：100 °C 付近の一定温度

試料気化室温度：150 °C 付近の一定温度

キャリヤーガス：ヘリウム

流量：スチレンの保持時間が約 10 分になるように調整する。

面積測定範囲：スチレンの保持時間の約 2 倍の範囲

スチレン-ジビニルベンゼン共重合体、液体クロマトグラフ用液体クロマトグラフ用に製造したもの。

p-スチレンスルホン酸ナトリウム $C_8H_7NaO_3S$ 白色の結晶又は結晶性の粉末で、水に溶けやすく、エタノール(99.5)に溶けにくく、ジエチルエーテルにはほとんど溶けない。

本品は薄めたエタノール(1 → 2)より再結晶した後、減圧乾燥する。

確認試験 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により測定するとき、波数 1236 cm^{-1} 、1192 cm^{-1} 、1136 cm^{-1} 、1052 cm^{-1} 、844 cm^{-1} 及び 688 cm^{-1} 附近に吸収を認める。

純度試験 本品の水溶液(1 → 1000) 10 μ L につき、「ペニペネム」の定量を準用して試験を行うとき、ペニペネムの測定を妨害するピークを認めない。

ステアリルアルコール [医薬品各条、第二部]

ステアリン酸、ガスクロマトグラフ用 $C_{18}H_{36}O_2$ [K 8585, 特級]

スルバクタムナトリウム、スルバクタムペニシラミン用 $C_8H_{10}NNaO_3S$ 白色～帶黃白色の結晶性の粉末である。水に溶けやすく、エタノール(95)に溶けにくい。

確認試験 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により吸収スペクトルを測定するとき、波数 1780 cm^{-1} 、1600 cm^{-1} 、1410 cm^{-1} 、1400 cm^{-1} 、1320 cm^{-1} 、1300 cm^{-1} 、1200 cm^{-1} 及び 1130 cm^{-1} 附近に吸収を認める。

水分 1.0 % 以下 (0.5 g)。

含量 換算した脱水物 1 mg 当たり 875 μ g (力価) 以上

を含む。定量法 本品及びスルバクタム標準品約 0.10 g (力価) に対応する量を精密に量り、それぞれ移動相に溶かし、内標準溶液 10 mL ずつを正確に加えた後、移動相を加えて 100 mL とし、試料溶液及び標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 10 μ L につき、次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行い、内標準物質のピーク面積に対するスルバクタムのピーク面積の比 Q_T 及び Q_S を求める。

スルバクタム ($C_8H_{11}NO_5S$) の量 [μ g (力価)]

$$= \text{スルバクタム標準品の量 [mg (力価)]} \\ \times \frac{Q_T}{Q_S} \times 1000$$

内標準溶液 パラオキシ安息香酸エチルの移動相溶液 (7 → 1000)

試験条件

検出器：紫外吸光光度計 (測定波長: 220 nm)

カラム：内径 3.9 mm、長さ 30 cm のステンレス管に 10 μ m の液体クロマトグラフ用オクタデシルシリル化シリカゲルを充てんする。

カラム温度：35 °C 付近の一定温度

移動相：0.005 mol/L テトラブチルアンモニウムヒドロキシド試液 750 mL に液体クロマトグラフ用アセトニトリル 250 mL を加える。

流量：スルバクタムの保持時間が約 6 分になるように調整する。

システム適合性

システムの性能：標準溶液 10 μ L につき、上記の条件で操作するとき、スルバクタム、内標準物質の順に溶出し、その分離度は 1.5 以上である。

システムの再現性：標準溶液 10 μ L につき、上記の条件で試験を 6 回繰り返すとき、スルバクタムのピーク面積の相対標準偏差は 2.0 % 以下である。

スルバクタムペニシラミン用スルバクタムナトリウム スルバクタムナトリウム、スルバクタムペニシラミン用を見よ。

スルピリン $C_{13}H_{16}N_3NaO_4S \cdot H_2O$ [医薬品各条]

スルピリン、定量用 [医薬品各条、「スルピリン」ただし、換算した乾燥物に対し、スルピリン ($C_{13}H_{16}N_3NaO_4S$) 99.0 % 以上を含むもの]

スルファチアゾール $C_9H_9N_3O_3S_2$ 白色の結晶性の粉末である。

融点 200 ~ 204 °C

スルファニルアミド $H_2NC_6H_4SO_2NH_2$ [K 9066, 特級]

スルファニルアミド、ジアゾ化滴定用 $H_2NC_6H_4SO_2NH_2$ [K 9066, ジアゾ化滴定用]

スルファニル酸 $H_2NC_6H_4SO_3H$ [K 8586, 特級]

スルファミン酸 (標準試葉) アミド硫酸 (標準試葉) を見よ。

スルファミン酸アンモニウム アミド硫酸アンモニウムを見よ。

スルファミン酸アンモニウム試液 アミド硫酸アンモニウム試液を見よ。

スルホサリチル酸 5-スルホサリチル酸二水和物を見よ。

スルホサリチル酸試液 5-スルホサリチル酸二水和物 5 g を水に溶かし、100 mL とする。

5-スルホサリチル酸二水和物 $C_7H_6O_6S \cdot 2H_2O$ [K 8589, 特

級]

青色リトマス紙 リトマス紙、青色 見よ。

精製塩酸 塩酸、精製 見よ。

精製水 [医薬品各条、第二部]

精製水、アンモニウム試験用 精製水 1500 mL に注意しながら硫酸 4.5 mL を加え、硬質ガラス製蒸留器を用いて蒸留し、初留をじゅうぶん除き、後の留液をアンモニウム不含の精製水とする。

純度試験 本品 40 mL をとり、フェノール・ベンタシアノニトロシル鉄（Ⅲ）ナトリウム試液 6.0 mL を加えて混和する。次に次亜塩素酸ナトリウム・水酸化ナトリウム試液 4.0 mL を加えて混和した後、60 分間放置した液につき、水を対照とし、紫外可視吸光度測定法により試験を行うとき、波長 640 nm における吸光度は 0.010 以下である。

精製メタノール メタノール、精製 見よ。

精製硫酸 硫酸、精製 見よ。

成分含量測定用アルブチン アルブチン、成分含量測定用 見よ。

成分含量測定用塩酸エメチニン 塩酸エメチニン、成分含量測定用 見よ。

成分含量測定用カプサイシン カプサイシン、成分含量測定用 見よ。

成分含量測定用カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム、成分含量用 見よ。

成分含量測定用シノブファギン シノブファギン、成分含量測定用 見よ。

成分含量測定用硝酸デヒドロコリダリン 硝酸デヒドロコリダリン、成分含量測定用 見よ。

成分含量測定用センノシド A センノシド A、成分含量測定用 見よ。

成分含量測定用センノシド B センノシド B、成分含量測定用 見よ。

成分含量測定用ブファリン ブファリン、成分含量測定用 見よ。

成分含量測定用ペオノール ペオノール、成分含量測定用 見よ。

成分含量測定用マグノロール マグノロール、成分含量測定用 見よ。

成分含量測定用レジブフォゲニン レジブフォゲニン、成分含量測定用 見よ。

精油 医薬品各条中の精油。

生理食塩液 [医薬品各条]

ゼオライト（孔径 0.5 nm）、ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの。

赤外吸収スペクトル用塩化カリウム 塩化カリウム、赤外吸収スペクトル用 見よ。

赤外吸収スペクトル用臭化カリウム 臭化カリウム、赤外吸収スペクトル用 見よ。

赤色リトマス紙 リトマス紙、赤色 見よ。

石油エーテル [K 8593、特級]

石油系ヘキサメチルテトラコサン類分枝炭化水素混合物（L）、ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの。

石油ベンジン [K 8594、特級]

赤リン P [K 8595: 1961, 1 級]

セクレチン標準品用ウシ血清アルブミン試液 ウシ血清アルブミン試液、セクレチン標準品用 見よ。

セクレチン用ウシ血清アルブミン試液 ウシ血清アルブミン試液、セレクチン用 見よ。

セスキオレイン酸ソルビタン [医薬品各条、第二部]

セタノール [医薬品各条、第二部]

石灰乳 酸化カルシウム 10 g を乳鉢にとり、水 40 mL をすり混ぜながら徐々に加えて製する。

赤血球浮遊液、A型 A型赤血球浮遊液 見よ。

赤血球浮遊液、B型 B型赤血球浮遊液 見よ。

セトリミド $C_{17}H_{38}BrN$ 本品は白色～微黄白色の粉末で、わずかに特異なにおいがある。

純度試験 溶状 本品 1.0 g を水 5 mL に溶かすとき、液は澄明である。

含量 96.0 % 以上 定量法 本品を乾燥し、その約 2 g を精密に量り、水に溶かし、正確に 100 mL とする。この液 25 mL を正確に量り、分液漏斗に入れ、クロロホルム 25 mL, 0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 10 mL 及び新たに製したヨウ化カリウム溶液（1 → 20）10 mL を加え、よく振り混ぜた後静置し、クロロホルム層を除く。更にクロロホルム 10 mL ずつで 3 回洗い、水層を分取し、塩酸 40 mL を加える。冷後、0.05 mol/L ヨウ素酸カリウム液で液の濃い色がほとんど消えるまで滴定し、更にクロロホルム 2 mL を加え、クロロホルム層の赤紫色が消えるまで滴定する。ただし、滴定の終点はクロロホルム層が脱色した後、5 分間以内に再び赤紫色が現れないときとする。別に水 20 mL、ヨウ化カリウム溶液（1 → 20）10 mL 及び塩酸 40 mL をとり、空試験を行う。

$$\begin{aligned} & 0.05 \text{ mol/L ヨウ素酸カリウム液 } 1 \text{ mL} \\ & = 33.639 \text{ mg } C_{17}H_{38}BrN \end{aligned}$$

セファトリジンプロピレンゲリコール $C_{18}H_{18}N_6O_5S_2 \cdot C_3H_6O_2$ [医薬品各条]

セファドロキシル $C_{16}H_{17}N_3O_5S \cdot H_2O$ [医薬品各条]

セフォセリス 3-エン異性体 $C_{19}H_{22}N_8O_6S_2$ 白色～帶黄白色の粉末である。60 °C で 3 時間減圧乾燥した後、赤外吸収スペクトル測定法のペースト法により吸収スペクトルの測定を行うとき、波数 3299 cm⁻¹, 1768 cm⁻¹, 1618 cm⁻¹, 1520 cm⁻¹ 及び 865 cm⁻¹付近に吸収を認める。

含量 90 % 以上 定量法 本品約 2.5 mg を pH 7.0 の 0.1 mol/L リン酸塩緩衝液 5 mL に溶かし、試料溶液とする。試料溶液 5 μL につき、「硫酸セフォセリス」の定量法を準用して試験を行う。試料溶液から得た各々のピーク面積を自動積分法により測定し、全ピークの合計面積に対するセフォセリス3-エン異性体のピーク面積の割合を求める。

セフジニルラクタム環開裂ラクトン $C_{14}H_{16}N_6O_6S_2$ 白色～黄色の粉末で、赤外吸収スペクトル測定法のペースト法で吸収スペクトルを測定するとき、波数 1743 cm⁻¹, 1330 cm⁻¹, 1163 cm⁻¹ 及び 1047 cm⁻¹付近に吸収を認める。本品は 4 種のジアステレオマーの混合物である。

含量 90 % 以上 定量法 本品約 5 mg を pH 7.0 の 0.1 mol/L リン酸塩緩衝液 5 mL に溶かし、試料溶液とする。試料溶液 5 μL につき、「セフジニル」の純度試験（2）類縁物質の試験条件を準用して試験を行う。試料溶液

から得た各々のピーク面積を自動積分法により測定し、全ピークの合計面積に対するセフジニルラクタム環開裂ラクトンの4種のピークの合計面積の割合を求める。

セフチブテン用 0.1 mol/L リン酸塩緩衝液、pH 8.0 リン酸塩緩衝液、0.1 mol/L、pH 8.0、セフチブテン用 を見よ。

ゼラチン [医薬品各条、第二部]

ゼラチン、酸処理 [医薬品各条、第二部「ゼラチン」ただし、等電点が pH 7.0 ~ 9.0 のもの]

ゼラチン試液 ゼラチン 1 g を水 50 mL に静かに加熱しながら溶かし、必要ならばろ過する。用時製する。

ゼラチン製ペプトン ペプトン、ゼラチン製 を見よ。

ゼラチン・トリス緩衝液 2-アミノ-2-ヒドロキシメチル-1,3-プロパンジオール 6.06 g 及び塩化ナトリウム 2.22 g を水 700 mL に溶かす。別に酸処理ゼラチン 10 g を水 200 mL に加温して溶かす。冷後、両液を合わせ、希塩酸を加えて pH を 8.8 に調整した後、水を加えて 1000 mL とする。

ゼラチン・トリス緩衝液、pH 8.0 2-アミノ-2-ヒドロキシメチル-1,3-プロパンジオール 40 g 及び塩化ナトリウム 5.4 g を水 500 mL に溶かす。この液にゼラチン 1.2 g を加温して溶かし、冷後、希塩酸を加えて pH を 8.0 に調整し、更に水を加えて 600 mL とする。

ゼラチン・リン酸塩緩衝液 リン酸二水素カリウム 13.6 g、リン酸二水素ナトリウム二水和物 15.6 g 及びアジ化ナトリウム 1.0 g を水に溶かし、1000 mL とし、薄めたリン酸 (1 → 75) を加えて pH を 3.0 に調整し、A 液とする。酸処理ゼラチン 5.0 g を A 液 400 mL に加温して溶かし、冷後、薄めたリン酸 (1 → 75) を加えて pH を 3.0 に調整し、更に A 液を加えて 1000 mL とする。

ゼラチン・リン酸塩緩衝液、pH 7.0 リン酸二水素ナトリウム二水和物 1.15 g、リン酸水素二ナトリウム十二水和物 5.96 g 及び塩化ナトリウム 5.4 g を水 500 mL に溶かす。この液にゼラチン 1.2 g を加温して溶かし、冷後、水を加えて 600 mL とする。

ゼラチン・リン酸塩緩衝液、pH 7.4 緩衝液用 0.2 mol/L リン酸二水素カリウム試液 50 mL に 0.2 mol/L 水酸化ナトリウム液 39.50 mL 及び水 50 mL を加える。この液にゼラチン 0.2 g を加温して溶かし、冷後、0.2 mol/L 水酸化ナトリウム試液を加えて pH を 7.4 に調整し、更に水を加えて 200 mL とする。

L-セリン C₅H₇NO₃ [K 9105, 特級]

セルロース、薄層クロマトグラフ用 薄層クロマトグラフ用に製造したもの。

セルロース、薄層クロマトグラフ用 (蛍光剤入り) 薄層クロマトグラフ用セルロースに蛍光剤を加えたもの。

セレン Se [K 8598, 特級]

前処理用オクタデシルシリル化シリカゲル オクタデシルシリル化シリカゲル、前処理用 を見よ。

前処理用アミノプロピルシリル化シリカゲル アミノプロピルシリル化シリカゲル、前処理用 を見よ。

センノシド A、成分含量測定用 薄層クロマトグラフ用センノシド A。ただし、次の試験に適合するもの。

吸光度 E_{1cm}^{1%} (270 nm) : 211 ~ 226 [0.01 g, 炭酸水素ナトリウム溶液 (1 → 100), 500 mL]。ただし、デシケー

ター (減圧・0.67 kPa 以下、酸化リン (V)) で 12 時間以上乾燥したもの。

純度試験 類縁物質 本品 5.0 mg を移動相 50 mL に溶かし、試料溶液とする。この液 1 mL を正確に量り、移動相を加えて正確に 25 mL とし、標準溶液 (1) とする。試料溶液及び標準溶液 (1) 10 μL につき、次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行う。それぞれの液の各々のピーク面積を自動積分法により測定するとき、試料溶液のセンノシド A 以外のピークの合計面積は標準溶液 (1) のセンノシド A のピーク面積より大きくない。

操作条件

検出感度及び面積測定範囲以外の操作条件は、「センナ」の成分含量測定法の操作条件を準用する。

検出感度：標準溶液 (1) 1 mL を正確に量り、移動相を加えて正確に 20 mL とし、標準溶液 (2) とする。標準溶液 (2) 10 μL から得たセンノシド A のピーク面積が自動積分法により測定されるように調整する。また、標準溶液 (1) 10 μL から得たセンノシド A のピーク高さがフルスケールの 20 % 前後となるように調整する。

面積測定範囲：溶媒のピークの後からセンノシド A の保持時間の約 3 倍の範囲

センノシド A、薄層クロマトグラフ用 C₄₂H₃₈O₂₀ 黄色の結晶性粉末で、水、クロロホルム又はジエチルエーテルに溶けない。メタノール又はアセトンにほとんど溶けない。融点：200 ~ 240 °C (分解)。

純度試験 類縁物質 本品 1.0 mg をとり、テトラヒドロフラン/水混液 (7 : 3) 4 mL を正確に加えて溶かした液 80 μL につき、「ダイオウ」の確認試験を準用し、試験を行うとき、R_f 値約 0.3 の主スポット以外のスポットを認めない。

センノシド B、成分含量測定用 C₄₂H₃₈O₂₀ 黄色の結晶性粉末で、水又はジエチルエーテルに溶けにくく、メタノール又はアセトンにほとんど溶けない。

融点 約 183 °C (分解)。

吸光度 E_{1cm}^{1%} (270 nm) : 210 ~ 225 [0.01 g, 炭酸水素ナトリウム溶液 (1 → 100), 500 mL]。

ただし、デシケーター (減圧・0.67 kPa 以下、酸化リン (V)) で 12 時間以上乾燥したもの。

純度試験 類縁物質

(1) 本品 1.0 mg をとり、テトラヒドロフラン/水混液 (7 : 3) 4 mL を正確に加えて溶かした液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。この液 80 μL を薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に 1-プロパノール/酢酸エチル/水/ギ酸混液 (7 : 7 : 4 : 2) を展開溶媒として約 15 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線 (主波長 365 nm) を照射するとき、R_f 値約 0.5 の主スポット以外のスポットを認めない。

(2) 本品 5.0 mg を移動相 50 mL に溶かし、試料溶液とする。この液 1 mL を正確に量り、移動相を加えて正確に 25 mL とし、標準溶液 (1) とする。試料溶液及び標準溶液 (1) 10 μL につき、次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行う。それぞれの液の

各々のピーク面積を自動積分法により測定するとき、試料溶液のセンノシド B 以外のピークの合計面積は標準溶液(1)のセンノシドBのピーク面積より大きくなり。

操作条件

検出感度及び面積測定範囲以外の操作条件は、「セナ」の成分含量測定法の操作条件を準用する。
検出感度：標準溶液(1) 1 mL を正確に量り、移動相を加えて正確に 20 mL とし、標準溶液(2)とする。標準溶液(2) 10 μL から得たセンノシド B のピーク面積が自動積分法により測定されるように調整する。また、標準溶液(1) 10 μL から得たセンノシド B のピーク高さがフルスケールの 20 % 前後となるように調整する。

面積測定範囲：溶媒のピークの後から、センノシド B の保持時間の約 4 倍の範囲

ソーダ石灰 [K 8603, 二酸化炭素吸収用]

p-ソルビトール [医薬品各条]

p-ソルビトール、ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの。

第三アミルアルコール t-アミルアルコール 見よ。

第三ブタノール t-ブチルアルコール 見よ。

ダイズ製ペプトン ペプトン、ダイズ製 見よ。

ダイズ油 [医薬品各条、第二部]

第二ブタノール 2-ブタノール 見よ。

多孔質シリカゲル、液体クロマトグラフ用 液体クロマトグラフ用に製造したもの。

多孔性アクリロニトリル-ジビニルベンゼン共重合体(孔径 0.06 ~ 0.08 μm, 100 ~ 200 m²/g), ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの。

多孔性エチルビニルベンゼン-ジビニルベンゼン共重合体(平均孔径 0.0075 μm, 500 ~ 600 m²/g), ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの。平均孔径は 0.0075 μm, 表面積は 1 g につき 500 ~ 600 m² である。

多孔性スレチング-ジビニルベンゼン共重合体(平均孔径 0.0085 μm, 300 ~ 400 m²/g), ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの。平均孔径は 0.0085 μm, 表面積は 1 g につき 300 ~ 400 m² である。

多孔性ポリマービーズ、ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの。

脱脂綿 [医薬品各条、第二部]

脱色フクシン試液 フクシン 1 g を水 100 mL に加え、約 50 °C に加温し、時々振り混ぜながら冷却する。この液を 48 時間放置し、振り混ぜてろ過する。ろ液 4 mL に塩酸 6 mL 及び水を加えて 100 mL とする。少なくとも 1 時間放置した後使用する。用時製する。

多硫化アンモニウム試液 (NH₄)₂S_n [K 8943, 硫化アンモニウム溶液(黄色), 1 級]

タルク [医薬品各条、第二部]

タンゲステン(VI) 酸ナトリウム二水和物 Na₂WO₄ · 2H₂O [K 8612, 特級]

タンゲステン酸ナトリウム タンゲステン(VI) 酸ナトリウム二水和物 見よ。

炭酸アンモニウム [K 8613, 特級]

炭酸アンモニウム試液 炭酸アンモニウム 20 g にアンモニア試液 20 mL 及び水を加えて溶かし、100 mL とする。

炭酸カリウム K₂CO₃ [K 8615, 特級]

炭酸カリウム、無水 炭酸カリウム 見よ。

炭酸カリウム・炭酸ナトリウム試液 炭酸カリウム 1.7 g 及び無水炭酸ナトリウム 1.3 g を水に溶かし、100 mL とする。

炭酸カルシウム CaCO₃ [K 8617, 特級]

炭酸水素アンモニウム NH₄HCO₃ 白色又は半透明の結晶、結晶性の粉末又は塊でアンモニアのにおいがある。

炭酸水素カリウム KHCO₃ [K 8621, 特級]

炭酸水素ナトリウム NaHCO₃ [K 8622, 特級]

炭酸水素ナトリウム、pH 測定用 NaHCO₃ [K 8622, pH 標準液用]

炭酸水素ナトリウム試液 炭酸水素ナトリウム 5.0 g を水に溶かし、100 mL とする。

炭酸銅 炭酸銅一水和物 見よ。

炭酸銅一水和物 CuCO₃ · Cu(OH)₂ · H₂O 青色～青緑色の粉末で、水に溶けない。希酸に泡立って溶ける。アンモニア試液に溶け、深青色を呈する。

純度試験

(1) 塩化物 0.036 % 以下

(2) 硫酸塩 0.120 % 以下

(3) 鉄 本品 5.0 g を過量のアンモニア試液に溶かし、ろ過する。残留物をアンモニア試液で洗い、希塩酸を加えて溶かした後、過量のアンモニア試液を加え、再びろ過する。残留物をアンモニア試液で洗い、恒量になるまで乾燥するとき、その量は 10 mg 以下である。

炭酸ナトリウム 炭酸ナトリウム十水和物 見よ。

炭酸ナトリウム(標準試薬) Na₂CO₃ [K 8005, 容量分析用標準物質]

炭酸ナトリウム、pH 測定用 Na₂CO₃ [K 8625, pH 標準液用]

炭酸ナトリウム、無水 Na₂CO₃ [K 8625, 炭酸ナトリウム、特級]

炭酸ナトリウム試液 無水炭酸ナトリウム 10.5 g を水に溶かし、100 mL とする(1 mol/L)。

炭酸ナトリウム試液, 0.55 mol/L 無水炭酸ナトリウム 5.83 g を水に溶かし、100 mL とする。

炭酸ナトリウム十水和物 Na₂CO₃ · 10H₂O [K 8624, 特級]

炭酸プロピレン C₄H₈O₃ 無色の液体である。

沸点 240 ~ 242 °C

水分 本品 1 g 中、水分は 1 mg 以下とする。

炭酸プロピレン、水分測定用 一般試験法の水分測定法 見よ。

胆汁酸塩 一般試験法の生薬の微生物試験法 見よ。

タンニン酸 [医薬品各条]

タンニン酸試液 タンニン酸 1 g をエタノール(95) 1 mL に溶かし、水を加えて 10 mL とする。用時製する。

タンニン酸ジフェンヒドラミン [医薬品各条]

チアントール [医薬品各条、「チアントール」ただし、「イオウ・サリチル酸・チアントール軟膏」の確認試験(3)を準用し、試験を行うとき、主スポット以外のスポットを認めないもの]